2010年（平成22年）5月27日 Vol.9

関西医科大学 広報

Kansai Medical University Public Relations

建学の精神

本学は、慈仁心鏡、すなわち慈しみ、めぐみ・愛を心の規範として生きる医人を育成することを建学の精神とする。

平成22年度
入 学 式

日本の医学を背負う人材に

天井の巨大なドラゴン（双龍鳳凰）が迫る教養部での入学式

2・3面に関連記事

CONTENTS

入学式挙行	2	学事	15
大学院入学宣誓式挙行	4	医療安全管理センター	22
法人　平成22年度事業計画・予算	5	病院	23
退任の挨拶	7	卒後臨床研修センター	25
就任の挨拶	8	附属看護専門学校	26
新入職員研修	10	大学情報センター	28
大学	11	キャンパス ニュース	29

入学式挙行

持っている才能や個性に磨きをかける時

桜が咲きほこり春爛漫の4月5日(月)午後1時から教養部大講堂で平成22年度本学入学式が挙行され、晴れ晴れとした姿の新入生113名(男71名、女42名)が医師になるための第一歩を踏み出しました。

入学式には、山下敏夫学長、塚原勇理事長はじめ来賓の大阪医科大学・竹中洋学長や教職員、父兄ら多数が臨席、6学年の山田萌さんのピアノ演奏ではじまり、本学混声合唱団コールクライスと共に学歌斉唱、新入生紹介の後、山下学長からは「本学を選んだ皆さんは、日本の医学を背負ってくれると信じます」と期待を込めた歓迎の告辞が述べられました。続いて、新入生を代表して澤田允宏さんの宣誓、2学年の平井千惠さんからの歓迎の言葉があり、新入生たちは、緊張の中にも希望にあふれた顔に満ちていました。入学式終了後には、専門部学生生活やカリキュラムの説明会が第一教室で行われました。

山下学長告辞

新入生の皆さんご入学おめでとうございます。本日男子71名、女子42名計113名の皆さんを迎えて、平成22年度の入学式を挙行できますことは、私たち関西医科大学の教職員にとりまして、まことに大きな喜びであります。ご臨席をいただきました大阪医科大学竹中洋学長をはじめご来賓各位に厚くお礼を申し上げます。見事に難関を突破されての合格であり、ご本人の努力と、その彼等の勉強と生活の支援を続けてこられたご家族や関係の方々に心からお祝いを申し上げます。

さて皆さんは今日の入学式を迎えて、医師になるためのまさに第一歩を踏み出されたことになります。喜びとともに、これからの本学で始まる学生生活への大きな期待と、そして少しは不安も抱いておられることでしょう。そこで皆さんの母校となる関西医科大学とはどういう大学か、歴史、現況、近い将来像などについてまずお話いたします。

本学は1928年に濱地藤太郎先生により大阪女子高等医学専門学校として創設されました。その後1954年に男女共学制を採用して校名を関西医科大学と改めました。

1960年には医学進学課程が設置されて、現在の6年課程の教育が行われるようになりました。卒業生総数は7,400名を数え、一昨年は創立80周年を迎えたという歴史のある学校です。その長い歴史の一端を示すのが、現在入学式が行われているこの講堂で、これは昭和13年に建築された建物です。

皆さん　天井を見上げてください。空から巨大なドラゴンが迫り、周囲を鳳凰が舞う、縦15メートル、横6メートルの長円に極彩色で描かれた天井画「双龍鳳凰」です。その迫力に圧倒されたのではと思います。この画は明治21年に大阪画壇屈指の上田耕冲らの実力者たちが集結して描いたもので、この講堂建築時に府立大阪博物場から移築され、今や大阪の文化財の1つとなっています。

次に本学の現況について述べてみます。本学は4年前に念願の新しい附属病院である枚方病院を京阪枚方市駅前に開院いたしました。この病院は施設、医療設備ともに日本有数の病院と自負できるものです。さらに本年7月には京阪香里園駅前に香里病院が開院されます。それらの結果、本学の施設の体制は、ここ牧野に教養部が、京阪滝井駅前に大学本部、滝井キャンパス、滝井病院があり、そして枚方病院、枚方キャンパス、さらに新しい香里病院と京阪沿線に点在しています。以上がハード面といえる施設の現況です。一方ソフト面では本学の教育は、6年一貫教育に基づく極めて高度で、最新の教育システムを採用しています。また研究面に関しては、7年前にCOE、即ち世界的研究拠点の1つとして選定を受けて以来、「研究の関西医大」の名は定着したのではと思います。臨床は大阪の北東部の医療を着実にリードしてきましたが、高度医療機器を揃えた枚方病院と香里病院の開院でさらにトップレベルの医療が行えるようになりました。本学はこの様に、教育、研究、臨床で大変頑張っています。皆さんは本日から関西医大生です。どうぞ関西医大生であることに自信と誇りを持ってください。

告辞を述べる山下学長

近い将来のことについてもお話しします。本学では枚方病院の横に大学本部や全てのキャンパスを統合した新しい学舎を建設する計画を立ててきましたが、念願のこの計画がようやく実現できることになりました。平成25年4月にオープンが予定されています。この新学舎は最高の教育環境に加え、極めて高いアメニティーをも合わせ持ち、大いに期待できるものです。皆さんの学生生活の後半にはこの新学舎で学べると思います。楽しみにしてください。

さて少し目を外に向けてみましょう。皆さんがこれから足を踏み入れる医療の世界は、極端な低医療費政策の下、医師不足地域が拡大し、産科や救急といった

医師不足診療科の問題も深刻で、わが国の医療崩壊は着実に進んできています。さすがに政府や行政もこの状態を放置できないとして、今までの医師数抑制策を覆し、医学部の定員を約10%増員することを決めました。しかし漫然と増やすのではなく、社会のニーズに合わせて、将来医師不足の地域や診療科で働く医師を増やすという方針です。本学でもこれに対応して「医師不足地域・診療科」特別枠を新設し、昨年4月からこの枠の10名の学生を迎え、また本年は9名の方が入学されています。初めての試みであり、心配しましたが、幸い昨年の特別枠で入られた学生さんは地域医療などに関する特別セミナー受講の義務はありますが、一般で入った学生とも分け隔てなく順調に学び、学生生活をエンジョイしています。また特別セミナーに一般学生も自発的に受講しており、社会が求める医師になろうとする機運がより高まった感じがします。大変良いことだと思います。

さてこの入学を機に皆さんに是非とも言っておきたいことが4点あります。

皆さんはどうしてこの厳しい医学の世界に入ろうと思われたのでしょうか。おそらくは「病気で苦しんでいる人を1人でも救いたい」という気持ちではないでしょうか。そのためにはある程度の自己犠牲は覚悟されていると思います。言っておきたい第1は、この初心と医師としての使命感を忘れないでほしいということです。

次に皆さんのこれまでの勉強方法を大きく変えてください。おそらく高校では与えられた知識を吸収するという受身の勉強、即ち暗記力中心であったかと思います。これから学ぶ医学知識の量は膨大で、丸暗記ではとてもやっていけません。また皆さんがこれから医療の第一線で働く時に求められるものは、患者さんを前にしての咄嗟の判断力や、生命そのものに関わる倫理観等です。与えられた知識を良く理解し、整理し、さらに自分で問題点を見つけ、自分で考えるという自学自習の習慣、さらには知識を使いこなす知恵を学んでください。

大学というところは皆さんの今までの、さらにこれからの長い人生の中で比較的自分の時間を自由にかつ有効に使うことができる場所です。この時期は、学問のみでなく、持っている才能や個性に磨きをかけ、さらに医師として将来要求される体力とコミュニケーション能力をつける絶好の時期です。本学にはたくさんのクラブ活動があります。是非クラブに入り、その活動を通じて、これらの能力を獲得し、そして多くの友人と素晴らしい人間関係を築いてください。ということが第3の点で、とても大切なことです。

第4は言わずもがなのことですが、医学生であると共に社会人であるという自覚を持って行動してください。まず挨拶をしましょう。これは礼儀の基本であり、医師としての出発点でもあります。もう1つ身だしなみには注意してください。本当の自由はきちんとした規律の中にこそあることを忘れないでください。

関西医科大学はバランスのとれた大変良い大学だと思っております。したがって皆さんは本当に良い大学に入学されたと先輩の1人としても自信を持って言えます。選ばれた皆さんは関西医大を、そして日本の医学を背負ってくれるものと信じます。皆さんを心から歓迎し、ご活躍を期待しています。

健康に留意されて、関西医大人として誇りをもって、実り多い学生生活を送られますことを祈り、私の告辞といたします。本日は誠におめでとうございます。

満開の桜が新入生を歓迎

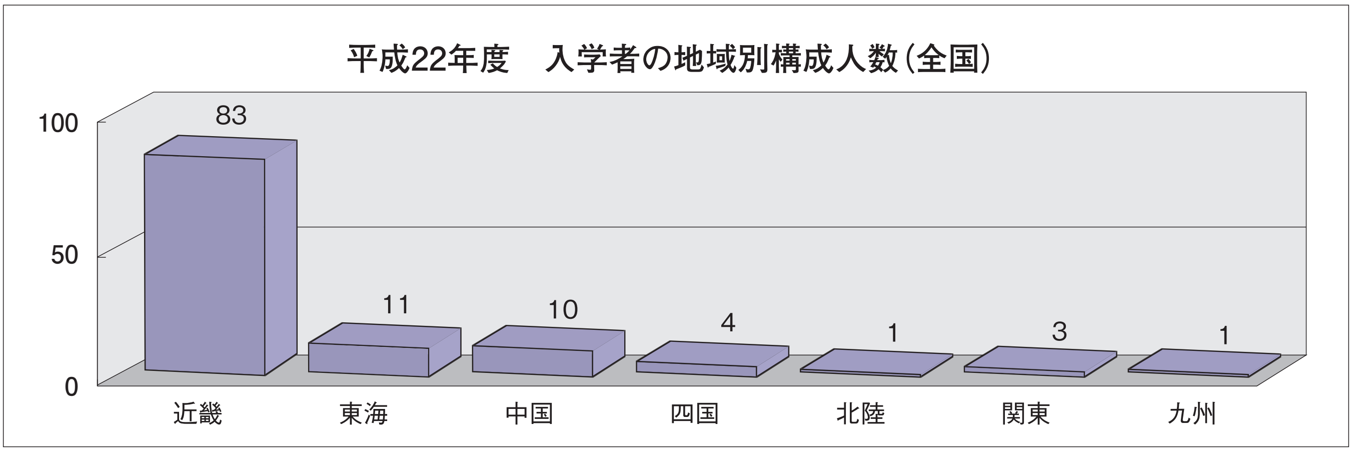
入学者地域別構成人数

平成22年度新入生は、男子71名、女子42名で、合計113名です。過去5年間の出身地域別入学者数を下表に、今年度の入学者数地域別をグラフにしてみました。

	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
近　畿	71	78	73	83	83
東　海	10	8	12	7	11
中　国	12	4	4	14	10
四　国	2	4	3	5	4
北　陸	3	2	3	2	1
信　越	0	0	0	1	0
関　東	3	1	3	3	3
九　州	1	2	2	0	1
北海道	0	1	1	0	0
その他	1	2	1	0	0
計	103	102	103	115	113

平成22年度・近畿の府県別

府県名	入学者数
大　阪	35
京　都	13
兵　庫	20
奈　良	11
和歌山	4
滋　賀	0
計	83



大学院入学宣誓式に31名

平成22年度本学大学院入学宣誓式が、4月12日(月)午後3時から専門部学舎大会議室において挙行され、山下敏夫学長による式辞、新入生を代表して齊藤朋人さんの宣誓がありました。本年度入学者は、右記の31名(男子24名、女子7名)です。

新入生を代表して宣誓する齊藤さん

法　人

平成22年度事業計画と予算について

平成22年度の事業計画と予算の概要を紹介します。事業計画の法人全体の概要は、中期経営目標“アクション2015　行動する関西医大”および“長期資金収支計画”並びに平成22年度予算に基づいて、新香里病院の開設・開院をはじめ、枚方新学舎建設事業、教育・研究、3つの病院による医療事業、経営企画・財務、用度・管財、施設整備、人事・総務、等の事業を実行することです。予算については、事業計画に則り、経常ベースの帰属収支差額の黒字基調を保ちつつ香里病院の開院と枚方新学舎の建設に向けた諸整備を進めるため、キャッシュフローの黒字確保を目指すものです。

平成22年度事業計画(概要)

法人主要事業は、枚方新学舎建設準備、香里病院の開院、新人事給与制度の推進です。枚方学舎建設は、実施設計、各種許認可、駐車場建設、施工契約を行い、香里病院は、平成22年7月1日に開院、診療を開始、新人事給与制度は、試行・研修・検証を経て実施を目指します。

教育事業は、卒前教育では教育医長制度、国外臨床実習生派遣、他大学との連携プロジェクト、進級・国家試験等の学習支援、入試センター活動、大学院では社会人コース、戦略的大学間連携プログラムの充実を図り、卒後教育では、医師初期臨床教育、看護実践支援、キャリア形成支援、女性医師支援、看護教育では志願者増対策、教員育成支援の充実をします。

研究事業は、高度医療人育成制度、研究資金・補助金の獲得､生命医学研究所及び実験動物飼育共同施設、ブレインメディカルリサーチセンター、産学連携知的財産統括室、共同研究講座(大塚製薬株式会社)幹細胞異常症学の活動強化に努めます。

医療事業は、附属枚方病院がチーム医療、医療安全、救急や緩和医療、医療経費の削減、教職員福利厚生の向上等を核に医療の質の一層の向上を目指し、附属滝井病院は、病床の削減・再編、患者に優しい地域密着中核病院として患者サービスのさらなる向上を、香里病院は、枚方・滝井病院・大学・医師会・地域・行政と連携して、地域医療の信頼される新しい拠点となることを目指します。

経営・管理事業では、平成22年度帰属収支差額とキャッシュフローの黒字、長期資金シミュレーションに沿った財務管理、設備投資・資金調達計画、用度・管財はじめ全部門による業務及びコストの改善、人事・総務領域では人材育成、安全衛生・健康管理、制度及び業務・広報、内部監査、情報システム、自己点検・評価の充実を図ります。

法人主要事業の主要3項目の詳細は次の通りです。

1. 枚方新学舎建設事業

平成21年度に策定した枚方新学舎企画設計でのゾーニング案に基づき、枚方キャンパス統合移転整備事業企画推進委員会の施設群検討小委員会および作業部会において、各部門の意向や要望を確認しつつ、継続して企画設計図面上のゾーン内に各部屋の配置や面積等を落とし込み、各部屋の使途や面積、或いは設置予定の設備や装置および機器備品等を考慮した基本計画案を策定し、さらに検討を加えて、平成22年7月末を目処に精度の高い基本設計図書を作成する。

引き続いて、出来上がった基本設計に基づき、詳細な実施設計を策定する。併行して、各種許認可取得のため諸官庁(文部科学省、国土交通省、枚方市等)と開発申請、高規格堤防、建築確認等の事前協議を行い、年内には、開発許可申請、建築確認申請も行う。なお、実施設計の終了時期は平成22年11月末を見込んでいます。

2. 香里病院開院と事業計画

寝屋川市や地元住民からの強い存続要望により、旧香里病院跡地に新しい「関西医科大学香里病院」を建設することとなり、平成20年7月に着工、平成22年6月初旬に開設認可、さらに保険診療機関の認可を受けて、今年7月1日に新しい関西医科大学香里病院として開院する予定です。

開設・運用および事業計画は、香里病院基本構想検討会議並びに病院開設準備委員会により、概要以下のように決定しました。

名称は関西医科大学香里病院、病床数は200床、診療科体制は内科、小児科、外科、乳腺外科、整形外科、リハビリテーション科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、婦人科、麻酔科、放射線科の13診療科、また透析センター(30床)、化学療法センター(10床)、地域医療連携部を設置する。夕方診療(17時～19時30分)を行います。電子カルテを採用し、放射線部門のPACS等の情報システムを整備、給食・職員食堂、検体検査、売店業務、等の業務は委託により運用します。

医療計画としては､平成22年度の帰属収入約23億円、消費支出約27億円を見込んで事業を行います。

3. 人事給与制度構築

平成22年度は、平成21年度に実施した目標管理制度の概要・システム操作方法・目標設定方法の説明、試行運用の結果を踏まえ、目標管理制度を改善するとともに、新人事給与制度への切替えの新たなステップとして、人事評価を試行します。

人事評価の試行においては、平成21年度からの目標管理制度の試行運用を継続し､目標管理面接を実施します。4月に目標設定面接・目標チャレンジシートの作成、10月に中間面接・目標進捗状況の確認、平成23年3月に育成目的の育成面接を実施し人事評価を試行します。

また、平成22年度は目標管理制度の試行運用結果を

検証し、改善をして、本稼働へ向けての準備、教員を除く職員の新資格への格付けを行います。

新人事給与制度への移行は、人事評価者研修として、①目標による管理の理解、②人事考課との関連性(人事考課制度と目標による管理)③個人目標の検証④目標の進行管理(進行管理と監督者の役割確認)⑤部下指導育成方法について研修を行い、制度の構築過程の節目、節目に職員へ十分な説明を行い、円滑に制度が移行できるように努めます。

平成22年度予算

平成22年度予算の概要は、収入の部では、通常ベースの医療収入に加えて寝屋川市からの香里病院建設関係補助金を見込み、帰属収入計は平成21年度予算比55億9,200万円増の495億6,400万円とし、支出の部は薬品費、診療材料費等の医療経費の増加、教育研究・管理経費の増加、人件費の増加等により消費支出計は21年度予算比32億8,200万円増の460億1,700万円です。

この結果、帰属収入計から消費支出計を差し引いた帰属収支差額は、35億4,700万円の黒字予算です。香里病院建設関連補助金を除いても黒字を自力で達成する予算編成です。最終キャッシュフローは、2億800万円の黒字とする計画です。

このように平成22年度予算は、経常ベースの帰属収支差額の黒字基調を保ちつつ香里病院の開院と枚方新学舎の建設に向けた諸整備を進めて、キャッシュフローの黒字化を目指すものです。

寄　付　金

施設設備整備拡充事業資金へご寄付いただきました方々のご芳名を掲載して感謝の意を表します。平成22年1～5月分（5月14日現在）

<個人>

浅井　英世　様	辻　　勝三　様
蘆田　光　　様	寺本　秀生　様
上田　清隆　様	中濵　力　　様
上田　美紀子様	菰田　敬三　様
服部　博之　様	坂崎　富夫　様
田妻　進　　様	匿名　4件

<法人>

京阪産業株式会社

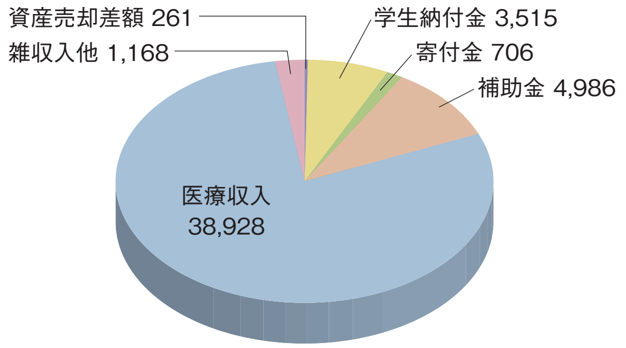
平成22年度予算消費収支計算書概要

（単位　百万円）

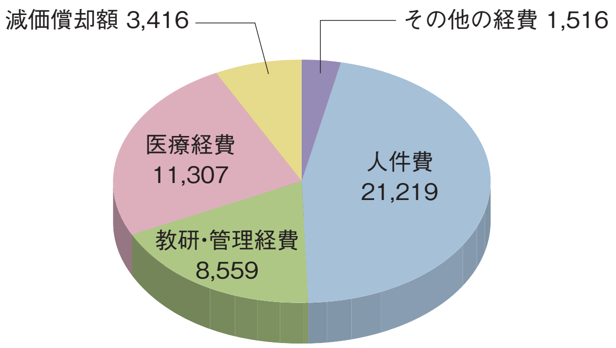
項目		平成22年度（予算）	平成21年度（予算）	増減金額
帰属収入	学生納付金	3,515	3,382	133
	寄付金	706	592	114
	補助金	4,986	2,146	2,840
	医療収入	38,928	34,754	4,174
	雑収入他	1,168	2,790	△1,622
	資産売却差額	261	308	△47
	小計 ①	49,564	43,972	5,592
基本金組入額 ②		△8,973	△3,524	△5,449
消費収入合計 ③=①+②		40,591	40,448	143

項目		平成22年度（予算）	平成21年度（予算）	増減金額
消費支出	人件費	21,219	20,808	411
	教研・管理経費	8,559	7,967	592
	医療経費	11,307	9,787	1,520
	減価償却額	3,416	3,090	326
	その他の経費	1,516	1,083	433
	合計 ④	46,017	42,735	3,282
消費収支差額 ③-④		△5,426	△2,287	△3,139
帰属収支差額 ①-④		3,547	1,237	2,310
キャッシュフロー		208	0	208

帰属収入



消費支出



法　人

退　任　の　挨　拶

一番うれしかったことは、21世紀COEに選ばれたこと

「25年を振り返って」

前病理学第一講座教授　池原　進

私が前田隆英教授の後任として関西医科大学病理学第一講座に着任しましたのは、昭和60年5月1日です。多くの先生方の御支援によりまして、数カ月足らずで免疫病理の研究が出来るようになりました。

研究室の立ち上げには、安水良知講師(現・県立塚口病院病理部長)と稲葉宗夫講師(現准教授)の働きを忘れることができません。

私共は、マウスを用いて、骨髄移植の研究をするものですから、ガンマ線の照射装置が不可欠で、4千万円もするガンマセルを、理事長先生、学長先生初め教授会の先生方の御配慮により、買って頂けたことも今日の研究の発展に連っているものと感謝致しております。

25年間を振り返って、一番うれしかったことは、我々の開発した、新しい骨髄移植方法が21世紀COEのprojectの1つに選ばれたことです。5年間で5億円以上の研究費が使用可能となりました。

ヒトへの応用を視野に入れて、サルを用いたトランスレーショナル・リサーチをすることになりましたが、1匹50万円もする高価なサルを使っての実験は、それはそれは大変な苦労でした。教室員全員、一丸となって休日はおろか、盆と正月も返上して、苦難の毎日でした。その努力が実を結び、この度、倫理委員会の承認を得て、関西医科大学主導の革新的骨髄移植方法の臨床応用(第1相試験)が、世界にさきがけて実施できることになりました。この間、各科の先生方の御協力により実現可能となったことに対して、この場を借りてお礼を申し上げます。

私にとって、この25年間は充実した日々で、教室員はもとより、理事長先生、学長先生初め、各科の先生方や事務職員の方々に対しても重ね重ねお礼を申し上げます。

幸い、4月から大塚製薬株式会社のご厚意により、共同研究講座(幹細胞異常症学)を専門部学舎2号館6階に開設することができるようになりました。お立寄り頂ければ幸いです。

それぞれの節目には必ず人との出会いがある

「お別れのご挨拶」

前内科学第一講座教授　福原　資郎

伝統ある第一内科を主宰させていただいて以来、瞬く間に16年有余の歳月が過ぎ去り、本日をもって定年退職を迎えることになりました。まさに「光陰、矢の如し。歳月、人を待たず。」の心境です。振り返りますれば、私は医学・医療とは関係のない家庭に育ちました。医の道を志すことになったのは全くの偶然であり、地域医療に人生を捧げた岳父の医業を継ぐつもりでした。その岳父の意を受けて関西医大へお世話になり、今、医育者として人生の完結の日を迎えることになった意外性に驚いております。それぞれの節目には必ず人との出会いがあり、自分に変化を与えて頂いたことを強く意識いたします。

私が臨床研修をはじめた1970年代における造血器腫瘍の診療は散々なものでした。初めて担当した急性白血病患者の大学生と傍らで看病する母、それに報いられない自分の姿、他の難病疾患にも無力な当時の医療等々、今でも強く脳裏に焼き付いております。しかし、今日では多くの患者が治癒を指向した診療を受けることができるようになりました。第一内科が担当する他の診療部門における膠原病や肺癌などにおいても同様です。教室員は確信をもってこうした難病疾患の克服へ向けた臨床業務に励んでおります。大学当局には、厳しい診療に従事する教室員への暖かい御支援を心からお願い申し上げます。私の研究課題も、癌細胞そのものの研究から、これを制御する生体防御、そしてこれを応用した難病治療の開発へと変わって参りました。こうした臨床医学の目覚ましい進歩に、今日まで教室員と一緒に第一線で関わることができた自分は誠に幸せであったと思っております。

関西医大における在職期間を通じ、尽きない幾多の思い出が去来いたします。着任して9年目、まさに教室運営が軌道にのった時、病魔に襲われました。塚原 勇理事長ならびに故日置紘士郎前学長はじめ大学の皆々様には大変なご心配とご面倒をおかけ致しましたが、多くの方々のご尽力と励ましを頂き再起することができました。2年後の平成16年には、教室は一丸となってリンパ系樹状細胞系3学会合同学術総会、そして平成18年には日本血液学会合同学術総会を成功裡に開催することができました。それにも増して、教育・研究・臨床の場において、今日まで教室員が次々と逞しく育ちつつある姿を見守ることができました。改めて、関係各位のご厚誼に感謝の意を表するとともに、関西医大と第一内科の益々の発展を心から祈念いたします。

法　人

就　任　の　挨　拶

生体防御機構修復の集大成をめざして

内科学第一講座教授　野村　昌作

平成22年4月1日づけで、関西医科大学内科学第一講座の主任教授に着任いたしました。ご推挙いただきました多くの先生方にお礼申し上げます。私は、略歴にお示ししましたように、10年近く大学の教員の立場から離れ、関西医大附属香里病院および市立岸和田市民病院で地域診療を中心に活動して参りました。その間、関西医科大学は大きな変革の時期を迎え、枚方病院という将来の関西医科大学の診療の柱となる新しい附属病院が完成いたしました。大学の外部から枚方病院の診療状況を拝見するにつけ、いつかこの病院で働ける日が来ることを大望しておりました。

今回、念願が叶い、枚方病院での診療に参加できることに、大きな喜びを感じると共に第一内科が担うべき重責に対し身が引き締まる思いでもあります。

さて、内科学第一講座は、血液・呼吸器・膠原病を日常疾患として扱うことから、生体防御(免疫機構)の破綻から発生する疾患を診療のターゲットとしている講座であります。血液内科は、ほとんどすべての血液疾患を受け入れているとともに、造血幹細胞移植(骨髄移植、末梢血幹細胞移植、臍帯血移植)にも力を入れています。また呼吸器内科は、良性呼吸器疾患(慢性閉塞性肺疾患・気管支喘息など)と悪性呼吸器疾患の両方の診療を担当し、分子標的治療をはじめとする最新の治療を日常診療として行っています。さらに血液内科・呼吸器内科ともに、外来化学療法センターでの抗がん剤治療を行い、地域がん拠点病院にふさわしい体制を整えています。そして膠原病内科は、関節リウマチや全身性エリテマトーデスなど多くの難治性疾患を担当し、生物学的製剤などによる最新治療も提供しております。これらの各診療部門が治療の最終目標に掲げている生体防御機構の修復は、前任の福原資郎教授が心血を注がれたテーマの樹状細胞の研究に大いに象徴されていると思われます。

今後は、これら従来の研究テーマに私が長年にわたって研究してまいりました血管病変の修復に関する研究を融合させることにより、生体防御機構の修復に関する集大成をめざし、診療・研究・教育の三本柱を発展させていきたいと考えております。なにとぞ皆様方のご支援、ご鞭撻をお願い申し上げます。

― 略　　歴 ―

野村昌作　教授

昭和56年 3月	関西医科大学卒業
昭和57年 4月	関西医科大学第一内科(安永内科)入局
平成元年 3月	関西医科大学大学院修了
平成元年 4月	関西医科大学第一内科助手
平成 6年 7月	関西医科大学第一内科講師(輸血部講師併任)
平成11年 5月	米国OAPメリーランド医学研究所(止血血栓部門研究員)
平成12年 4月	関西医科大学附属香里病院　内科医長(輸血医長併任)
平成15年 4月	関西医科大学第一内科助教授
平成15年10月	市立岸和田市民病院　血液内科　部長
平成22年 4月	関西医科大学内科学第一講座　主任教授

現在に至る

一般職新規入職者は199名

枚方・滝井の両病院で入職式

平成22年度一般職新規入職者は199名で、職名別の内訳は、助産師9名、看護師170名、医療ソーシャルワーカー2名、作業療法士1名、臨床検査技師4名、臨床工学技士4名、診療情報管理士2名、教務技術員1名、司書1名、事務員5名です。4月1日(木)午前、附属枚方病院と附属滝井病院でそれぞれ入職式が行われました。

なお、看護師の採用内定者の国家試験合格率は93.8%(全国89.5%)でした。

附属枚方病院では、午前9時30分から13階講堂において、今村洋二病院長を始め関係者の出席のもと入職式を挙行、124名の新入職者を迎え、今村病院長から代表者に辞令が手渡されました。入職者は以下のとおり。

看護師	105名	臨床工学技士	4名
助産師	9名	事務員	1名
作業療法士	1名	医療ソーシャルワーカー	1名
臨床検査技師	2名	診療情報管理士	1名

附属滝井病院では、午前9時から6階講堂で岩坂壽二新病院長を始め関係者が出席し入職式が執り行われました。今年度の新入職者は62名。各部門でオリエンテーションを受け、第一線へと配属されました。入職者は以下のとおり。

看護師	59名	事務員	2名
医療ソーシャルワーカー	1名		

今村病院長から辞令を受け取る新入職代表（枚方）

法　人

特　別　寄　稿

洛西ニュータウン病院、 ～この4年間を振り返って～

前洛西ニュータウン病院院長　**箕浦　俊之**

洛西名物の桜もソメイヨシノから八重桜へと花姿を変え、季節の移ろいを教えてくれています。何かいつもと趣きが異なると感じるのは気のせいでしょうか。その花たちに送られ、3月で4年間の院長職を退任いたしました。

私は昭和55年に関西医大を卒業し、故山本正勝教授の主宰される外科学講座に入局し、大学では血管外科を担当し、その後平成5年10月関西医大附属洛西ニュータウン病院に赴任致しました。ご承知のように、当院は昭和57年、当時華やかなりしニュータウン構想の下、関西医科大学の4番目の附属病院として開設されました。当初は予想される人口増加に備え、中核総合病院を作るという目的で、実際当初10数年は順調に推移しました。

しかし、平成9年以降のバブル崩壊後の構造不況による社会情勢の悪化により、少子高齢化に拍車がかかり、医療費削減ありきの場当たり政策により、医療情勢は一変しました。とりわけ平成16年度からの新医師臨床研修制度により、大学から医師の姿が消え、地域病院の閉鎖が相次ぎ、医療崩壊を現実のものにさせています。さらに外科系、基礎系医師の激減で日本の医療の将来も危ぶまれています。

当院においても、赤字体質に喘ぐ中、関西医科大学創立100年の大計として、枚方新病院の開設が決まり、各附属病院および職員の整理統合・再編が行われた結果、当院は平成18年4月に清仁会への移譲がなされ、24年間の附属病院の歴史をひっそり閉じました。その年初、枚方新病院が開院し華々しく喧伝される中、関西医大の光と影をみる思いでした。

さて残留した職員の希望もあり、『洛西ニュータウン病院』の名を残した新病院を託された私に与えられた任務は、現診療体制を維持しつつ混乱の無い移譲、大学出向者の計画的な帰向、病院経営の健全化と相反するものばかりで、大学からの人的供給路も断たれ、戦々恐々とする職員を前に頭を抱えました。幸い当院には歴代院長が培ってこられた患者さんからの厚い信頼、豊かな自然環境の中の立地条件、優しく優秀な看護師や職員による家庭的な雰囲気、良好な医師達の人間関係等、病院に必要なものは存続していました。そこで原点に帰り、職員に対し、再三の説明会により明確な将来ビジョンを提示し、意思統一を図り、大学から離れたことによる意思決定の早さと自由度を最大限に生かしつつ、次々と事業を展開して参りました。まず病院の品格を問われるトイレ、浴室を中心とした病棟の改装・改編により、患者さんへのサービス性・安全性の向上を図り、心カテ室・CCU・形成外科(美容外科を含む)・歯科・心療内科(前関西医大教授　中井吉英先生を招聘)の開設等の医療の充実を図り、検査室のブランチ化、放射線機器の完全CR化等、その他経費節減に繋がるあらゆる所を再検し収益性の向上を図りました。また保育所等の職員のアメニティを向上させ人的確保を容易にしました。さらに健診センター、地域医療連携室を整備し地域に根ざすことを目指しました。その結果、当初の課題もほぼ達成し、患者さんからも『暖かく良い病院になった』とお褒めの言葉を頂き、外科医を兼任する激務ではありましたが、充実感溢れる4年間の幕を閉じる決心をしました。経営には全くの素人の私がここまでやってこられたのも、清仁会や大学の皆様、とりわけ当院に対して熱い思いを寄せる職員、多くの患者さんの皆様の支援の賜物と心より感謝しております。今後とも多くの関西医大出身者で占める当院へのご厚情、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

当院が‘for the patient, for the community’の病院理念の下、益々発展することを願い、また移譲時に苦労を共にし、香里病院の重責を担われる当院出身の高山康夫院長、矢野愛子看護部長、鈴木健彦事務部長にエールを送り、16年半におよぶ当院での勤務を終えることにします。

最後に30年にわたり私を育んで頂いた関西医科大学、そして外科学講座には心よりお礼申し上げます。

季節の移ろいを感じる洛西NT病院

★ハイチ義援金、学長からシスターに★

「教職員一人ひとりの気持ちです」。2月18日(木)午後4時から学長室においてハイチ大地震復興支援のため教職員から募った義援金の贈呈が行われ、山下敏夫学長から本学卒業生のシスター須藤昭子さん(17回生)に手渡されました。シスターからは「全壊した病院の再建に使わせていただきます」とお礼と感謝の言葉がありました。

本学を挙げて義援金を呼びかけ、各部署に義援金箱などを設置し募集したところ、短期間にもかかわらず多くの方から総額は105万2千円もの義援金が寄せられました。教職員の皆様、ご協力ありがとうございました。

法　人

新入職員フォローアップ研修　医療従事者としての自覚を促す

総務部では、平成21年度の一般職系新入職員(看護職を除く)を対象に、平成22年1月15日(金)にフォローアップ研修会を開催しました。この研修会は、昨年度から開催され、社会人一年生の基礎教育フォローアップと自己啓発の動機付けを行い、医療従事者としての自立を促すことを目的としています。

参加対象者は、事務職の中途採用をした関係から平成22年1月1日付入職者までをその受講対象者とし、32名の参加がありました。

講演には、神崎秀陽総務担当理事、今村洋二附属枚方病院長を招き、普段なかなか接することのない先生方を前に参加者は緊張した面持ちで講演を聞き入っていました。

引き続き行ったグループ討論・発表では、「職種間で信用・信頼を築くためには」を題材に活発な討議が行われ、参加者からは「今後も職種、勤務場所を横断したこのような研修に参加したい」との声が多く聞かれました。受講終了後には、「私の職業人としての目標」について書いてもらいました。その中からお二人の“目標”をご紹介します。

32名が参加した研修会の模様

他の組織との信頼関係も大切

附属枚方病院薬剤部　町谷　友紀奈

3月に学生を卒業して、4月から社会人として新たな一歩を踏み出しました。この9ヶ月間で学んだことは数えきれない程ありますが、薬剤師としての知識を得ること、日々の勉強は当り前のことで、同じ職場の人とどのように信頼関係を築いていくかということを考えながら働いてきました。日々の挨拶や笑顔、相手への思いやり、丁寧な対応など意識して業務をこなしてきました。しかし、今回のフォローアップ研修に参加させてもらい、私の考えは、部内での向上ばかりを目標に仕事をしてきていることに気付きました。それは間違いであり関西医科大学という大きな組織の一部に私は所属していて、薬剤部にとどまらず他の職種の人も一つの同じ組織で働いているのであって、お互いが存在しないと病院は成り立たないと気付くことができました。

組織に所属している一人として、薬剤部内さらには他の職種の人たちと信用と信頼関係をつくっていくことを大きな目標に、毎日業務をこなすだけではなく、どうしたら相手と良い関係を築けるのか考え、また4月から意識していた笑顔を忘れないことや元気よく挨拶をする等を継続してこれから働いていきたいと感じました。

素直に謝罪できる人でありたい

附属滝井病院臨床検査部　髙畠　希

4月に入職し、10ヵ月が経過しようとしています。

職場にも慣れてきた頃ですが、日々仕事をしている中で思うこともあり、そこから自然と目標となるものが見えてきました。

〈あいさつ・お礼・謝罪はきっちりと行う。〉

患者さんをはじめ清掃員・他部署の方など名前を知らなくても院内ではとても多くの人と出会います。気分が沈んでいる朝があっても、笑顔で「おはようございます」と声を掛けられ、少し元気になった経験がありました。

仕事をする上でミスをしてしまうこと、もしくはされることもありますが、「すみません」という一言があるのとないのとでは相手に与える(受ける)印象もだいぶ違うと思います。経験を積んだ頃の失敗は認めたくないこともあるかもしれませんが、素直に謝罪できる人でありたいと思います。

〈常に目標をもつ〉

目標をもつことが目標です。まず、今年自分は何を達成していこうか。そして3年後、10年後にはどうありたいか。目標のない者に成長はありません。昨年入職した私は自分に与えられた仕事をすることで精一杯でした。今年は周りの様子も見て動けるようになろうと思います。又、数ヵ月後に行う学会発表に向けて知識を増やし、充実した時間を過ごせるよう努力します。

平成22年度新入職員研修を実施

平成22年度新入職員入職前研修は、4月8日(木)9日(金)の両日、看護協会ナーシングアート大阪で、新入職者全員の199名が出席して行われました。

8日は、竹林俊雄総務部長の「大学の紹介」からはじまり、今村洋二枚方病院長の「目指すべき病院　職員像」と題した講話、出水順治財務部長の「大学、病院経営について」、附属滝井病院精神神経科・吉村匡史講師の「健康管理について」、先輩看護師のスピーチなどと続き、最後に神崎秀陽総務担当理事の講話がありました。

9日は、相部博子さん(株式会社ビーフォーシー)を講師に招き「組織人としての役割と姿勢」をテーマに1日みっちり勉強しました。

大　学

第104回医師国家試験結果

第104回医師国家試験の結果が3月29日（月）厚生労働省により発表されました。

本学は、新卒受験生93名のうち89名が合格し合格率は95.7％、新卒者だけみると私立医科大学29校中6位と好成績でした。既卒者は8名のうち4名が合格。新卒者と既卒者を合わせると受験者数101名中93名が合格、合格率は、92.1％で、全国平均の89.2％を2.9ポイント上回り、私立医科大学29校中8位、全国80校中では28位という結果でした。

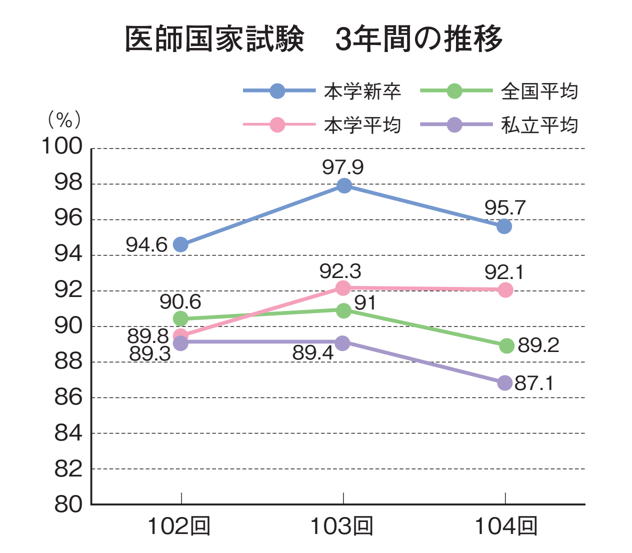
	受験者数	合格者数	合格率（%）
新　卒	93	89	95.7
既　卒	8	4	50.0
合　計	101	93	92.1

全国平均合格率89.2％　　私立平均合格率87.1％

名誉教授称号の授与

本学名誉教授称号授与規程に定めるところにより、教授会の議を経て、名誉教授称号が次のとおり4月1日付授与されました。

第86号　池原　進　　前病理学第一講座教授
第87号　福原　資郎　前内科学第一講座教授



平成21年度卒業生進路　本学研修増える

平成21年度卒業生は90名で、その進路は、本学研修が34名、国立大学病院4名、公立大学病院5名、私立大学病院3名、市中病院38名などとなっています。

本院入局が37.8％と昨年の25％を大きく上回りました。学外をみると市中病院が42％と一番多いですが昨年より35％減っています。

新任2教授ら平成22年度の新体制決まる

アイソトープ施設長、ガンマ線照射施設長の2部門の新任、その他の再任が決まり、平成22年度の新体制が4月1日からスタートしました。　各種役職者改選投票の結果は、下記のとおり。任期は2年。

[専門部教授会]
- 専門部教務部長　再任　薗田精昭　教授
- 専門部学生部長　再任　山田久夫　教授
- ブレインメディカル
  リサーチセンター長　再任　伊藤誠二　教授

[大学院医学研究科委員会]
- 大学院教務部長　再任　木梨達雄　教授
- 附属生命医学研究所長　再任　木梨達雄　教授
- 綜合研究施設長　再任　中邨智之　教授

[全学教授会]
- 大学情報センター長　再任　髙橋伯夫　教授
- アイソトープ施設長　新任　伊藤誠二　教授
- ガンマ線照射施設長　新任　藤澤順一　教授

[臨床系専門部教授会]
- 学医　新任　福永幹彦　教授

平成22年度クラスアドバイザー

第1学年（A）	森田　正之	講　師
第1学年（B）	前田　　茂	教　授
第 2 学 年	螺良　愛郎	教　授
〃	圦　　貴司	講　師
第 3 学 年	中邨　智之	教　授
〃	大谷ひとみ	講　師
第 4 学 年	楠本　健司	教　授
〃	鈴木　健司	講　師
第 5 学 年	金子　一成	教　授
〃	木下　　洋	准 教 授
第 6 学 年	岡崎　和一	教　授
〃	關　　壽人	診療教授

大　学

国外臨床実習を終えて

新たな派遣3施設、5人の体験談

卒前・卒後を通じて国際的視野を持って活躍する医療人育成を強化するために、今年度から、第6学年を対象に国外臨床実習のための派遣施設を米国の3大学を含む5ヶ所に増やしました。そこで、今回新たに増えた派遣施設のスタンフォード大学、コロンビア大学、バーモント大学で実習を終えた6学年5名のみなさんに実習の報告・感想を書いてもらいました。

スタンフォード大学
経験生かし視野広げたい

6回生　田中　真沙美

今回、国外実習という形で1カ月スタンフォード大学医学部の精神科sleep & circadian labに実習に行かせていただきました。私は、将来医学留学をしたいと思っていたので今回学生のうちに海外の病院を見られることは非常にいい機会だと思い希望しました。数ある病院の中でもスタンフォード大学を選んだのは、世界的にも有名なスタンフォード大学に行けるなんてなかなかない機会だと思ったことと、分野が精神科の中でも今回お世話になったところは睡眠障害を専門にやっていたからです。睡眠障害は日本でもまだ専門的に取り扱う病院は少なく、学習する機会も少ないので興味を持ちました。

アメリカでは睡眠医学はメジャーな分野で、中でもスタンフォード大学では睡眠医学の研究は世界で最も進んでいる病院で、睡眠に関する世界的に有名な先生がたくさんいらっしゃいます。そんな方たちに混ざって症例検討会に参加したり、診察を見学したりするという貴重な体験をしました。先生方は非常に親切で私たちにもすごくfriendlyに話してくれました。ここの学生やレジデント達は世界的に有名な先生に直接指導を受けていてさすがスタンフォード大学だと実感しました。

日本とアメリカの医学教育の違いにも大変興味を持っていたのですが、今回の実習を通して感じたことは、アメリカのレジデントたちは、まず自分たちで問診・診察をし、それが終わると指導医にプレゼンテーションをし、それを聞いて指導医は患者さんのことを大体理解し、レジデントが決めた治療方針などを訂正し、もう一度指導医とレジデントで診察に行きます。日本では、こういった診察をすると二度手間になってしまう、と思ってしまいますが、こういった形を取ることでレジデント達は日本に比べて早い段階から実践的な経験を積み、一人で診察するという能力が鍛えられているという印象を受けました。

今回、アメリカの医学教育を目の当たりにして、もっともっと臨床実習を積極的に参加し、研修医になった時、アメリカのレジデント達のようになりたいと思いました。また、この経験を生かして、視野をもっと広げた医師になりたいと思います。

今回、実習の機会を与えて下さった先生方、お世話になった研究室や病院の先生方に大変感謝しています。ありがとうございました。

スタンフォード大学
改めて英語の重要性気づく

6回生　吉岡　晶子

2010年4月5日から4週間、私はスタンフォード大学で国外臨床実習をさせていただきました。今回スタンフォード大学の精神科での実習を希望したのは、5回生の精神科クリニカルクラークシップでは睡眠障害の患者さんと接する機会があまり持てなかったことと、日本では睡眠障害の専門家自体が少ないことから、この機会にぜひアメリカで学びたいと考えたからです。実習受け入れ先のSleep Labでは主にナルコレプシーと、その要因の一つであるとされるオレキシンというホルモンが生物の概日リズムにどのように作用するかを調べる研究が行われています。今回の臨床実習ではスタンフォード大学精神科の教授である西野精治先生のご厚意で大学付属病院と系列病院、さらにUCSFも見学させていただくことができました。

スタンフォード大学では睡眠障害専門のSleep clinicが設立されています。そこでは近年日本でも注目を集めているSAS（睡眠時無呼吸症候群）の治療が積極的

実習したスタンフォード大学の施設

に行われており、睡眠時の脳波・筋電図・無呼吸の有無などを測定する検査が泊まり込みで行える設備が整っています。患者さんは成人男性ばかりかと思っていましたが、Sleep clinicには両親に連れられてくる小児のSAS患者さんも多くいらっしゃいます。小児のSASでは昼間の眠気から来る集中力の低下や落ち着きのなさからADHDと診断され、適切な治療を受けるまでに時間がかかることも多いそうです。クリニックの初診では約1時間、再診では約30分の診察枠を取ります。睡眠に関する問題は患者さんの睡眠を取り巻く生活環境やストレスも大きく関わってくるために、身体診察に加えて患者さんと話をする時間が長く、関西医科大学の心療内科に近いように感じました。治療としては患者さんへの生活指導やC-PAP治療のほか、睡眠時の気道が確保できるように顎を広げる矯正歯科や扁桃腺摘出術などの外科治療も行われています。

今回の国外臨床実習を通して、改めて英語の重要性に気付き、アメリカで働く医師のモチベーションの高さに驚かされました。4週間という長いようで短い期間ではありましたが、かけがえのない経験をさせていただきました。最後になりましたが、アメリカでお世話になった西野先生ご夫妻とSleep Labの皆様、親切にご指導くださった病院の皆様、貴重な機会を与えてくださった関西医科大学の先生方に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

バーモント大学
患者さん中心の医療を実践

6回生　佐々木　優

私はこの度、2010年3月28日から4月25日までの約1ヵ月間、アメリカ、バーモント大学医学部附属病院Fletcher Allen Health Careにて研修をさせていただきました。研修の具体的なプログラムは、病理解剖、司法解剖、外科手術、脳外科手術、消化管内視鏡検査、外科外来、泌尿器科外来、ICU見学などです。

5回生より約1年間のクリニカルクラークシップを経験した後の研修であったため、日本とアメリカでの医療や病院のシステムの相違点を意識しながら研修を行いました。私が主に研修を行った病理科では病理医の数も多く、病理解剖がおよそ週2回のペースで行われていました。また、外科のカンファレンスにも病理医が参加し、患者さんの病態や予後について様々なアドバイスを提示している点が非常に印象的でした。

一般外科の外来においても、日本とは異なる点が多々ありました。医師自ら患者さんの待機している部屋まで足を運んでいく点、患者さんの目の前では決してカルテを書かない点、ジョークを交えつつ患者さんの緊張を和らげ常に笑顔で接している点など、患者さん中心の医療が積極的に実践されていると感じまし

研修したFletcher Allen Health Care

た。ICUでは、回診の際に入院患者さん1人ひとりに対して多くの時間が充てられ、午前中に3時間かけて回診が行われていました。様々な診療科の先生方が、治療指針に関して時間をかけて議論を重ねておられました。

また、現地の先生方や医学部の学生たちとも話をする機会に恵まれました。日本の抱える医療問題をアメリカではどのように解決しているか、また、アメリカで話題になっている医療問題にはどのようなものがあるかなどの意見交換ができ、貴重な経験を得ました。

今回の研修を通して、医師としての将来の視野が広がったのはもちろん、人間としても成長できたことを強く感じます。最後になりましたが、今回のプログラムを組んで下さり、滞在中大変お世話になった木田正俊先生、この研修に際して様々なアドバイスを下さり、研修中も私たちのことを気遣い激励の言葉をかけて下さった友田幸一教授に厚く御礼申し上げます。

バーモント大学
医学生に責任感を持たせる教育

6回生　藤原　敦子

今回の実習で一番貴重な体験となったのは、バーモント大学の木田正俊先生ご夫妻や金沢医科大学の学生と一緒に、時間を過ごせたことと、様々な人(現地の人、米国で活躍する日本の方々、日系アメリカ人学生、日本語を勉強する他国の学生）と出会えたことです。現地の人と会話して、英語が出来ないからこそ、非言語的コミュニケーションの重要性や、何とかして思いを伝えたいという気持ちを再発見しました。そしてアメリカでは「生活、建物や人間関係などに対して、より快適な環境を追求し、自分のやるべきことに集中出来るようになっている」という印象を受けました。

病院実習で、バーモント大学4回生（最終学年）のshadow（影のようについて回る事）をさせて頂き、米国では医学生に責任感をもたせる教育がなされていると感じました。医学生が、患者さんのデータを集め、問診や診察をして得た情報を指導医に報告し、指導医がその内容をメモしながら聴いていることに驚きました。また、簡単な手技は学生一人に任せられているの

大　学

を見て、医学生の労力を利用すれば、もっと教育・効率の面でよい方向に向くのではないかと思いました。実習を終えた今は、ほんのちょっとしたことでもいいから責任を持たせてもらい、私自身の意識を変えて、緊張感のある学びをしていきたいと考えています。

今回の国外での生活・実習を通して、様々なことを考えさせられました。今はもう、ノートに書き走った内容を見ても、当時の込み上げて来る思いを同じように思い出すことができません。1ヵ月間まるで夢を見ていたようです。実習を終えてすぐにだらけてしまい、結局は一人では何も頑張れず、何もできない自分なのですが、今までお世話になった方々の顔が頭に浮かび、私の背中を押してくれている感じがするようになりました。すべて、何かしら誰かの協力・支援があることを忘れずに、それらを他の人達に還元できるよう、人生を歩んで行こうと思います。みなさん、これからもご指導・ご鞭撻の程どうぞよろしくお願いいたします。

コロンビア大学
肌で感じた研修プログラムの充実

6回生　平　雄一郎

2010年4月5日から4月25日まで、アメリカ合衆国、ニューヨーク・マンハッタンにあるNewYork-Presbyterian・Columbia University Medical Centerで、同大学循環器内科教授の本間俊一先生のご指導のもと、臨床実習をさせていただいた。かねてから米国の医療の現場を見たい、そこで行われている医学教育を実際に体験したいという希望を抱いていた私にとって、Columbia大学における3週間の臨床実習は非常に有意義なものであり、中でも特に印象に残ったのは以下の通りである。

・循環器コンサルトのチームの一員として、フェローにマンツーマンで指導を受けた
・心エコー室で担当患者さんのエコーを見学し、その後の治療方針をフェローと討議
・週一回のGround Round（全科の医療者向けの勉強会）では、大いに刺激を受けた
・毎朝7時からの循環器カンファレンスに参加

コロンビア大学HEART CENTER前にて、バーモント大学木田教授と兵庫医科大学より同じプログラムで派遣されていた栗原侑子さん（左から2人目）と本人（左から3人目）

Columbia University Medical Center

・フェロー向けのEKGカンファレンスに参加
・Journal Clubで最新の医学論文を学んだ。
・心臓血管外科の中先生が執刀される、移植前のブリッジングセラピーとしての人工心臓いわゆる左室補助循環装置（left ventricular assist device：LVAD）の取り付けの手術を見学
・移植外科の加藤先生が執刀される、生体肝移植の手術を見学
・CCUでアテンディング・フェロー・レジデント・インターンと共にラウンドをし、また様々な処置を見学
・心臓カテーテル室において“Percutaneous Aortic Valve Replacement ：P.A.V.R”やペースメーカーの埋め込み術を見学
・附属クリニックでフェローの外来に陪席

実習を通して、アメリカではインターン、レジデント、フェロー、そしてアテンディングという立場のもとに、臨床研修プログラムが充実していることを肌で感じることができた。また、国家予算に占める医療費の割合が日本とアメリカでは大幅に異なり、さらに企業や個人資産家からの多額の寄付によって、質の高い教育や病院・研究施設の建設、最先端の研究技術が臨床の場で提供されていることも、自分の目で見ることができた。

周知のごとくColumbia大学はアイビーリーグの一校で、これまでにノーベル賞受賞者を90名以上輩出している名門大学である。特に循環器内科でレジデントやフェローとして残るには、100倍の競争を勝ち抜かなければならないとのことである。こういった環境での実習は、将来を考えるにあたり強い刺激となり、USMLE取得という高い目標を掲げて優秀な医師となるべく学業に取り組み、いつの日かまたニューヨークに戻り、世界を視野に入れた医療活動ができたらと強く願うようになった。もちろん、更なる人間性の成長も期待しつつ…Good Doctorであろうとする努力が、実はその医師を一人の人間としてBetter Personにしていくのだと信じている。

大学時代に何ものにもかえがたい経験をさせていただき、Columbia大学・関西医科大学両大学の関係者の皆様に感謝申し上げる次第である。

学　事

医療現場で学ぶ新5学年生　本学初の臨床実習生認証式

平成22年度から本学では初めてとなる臨床実習生認証式が4月2日（金）午前9時から附属枚方病院13階講堂において、山下敏夫学長、薗田精昭教務部長、今村洋二附属枚方病院長、岩坂壽二附属滝井病院長、安田照美附属枚方病院看護部長、木下洋クラスアドバイザーの出席のもと開催されました。

最初に、薗田専門部教務部長から臨床実習生認証式開催に至った説明を交えた挨拶があり、次いで山下学長から新5学年97名一人ひとりに許可証の授与が行われました。引き続き山下学長から挨拶、今村・岩坂両病院長から臨床実習に対する心構えなどの訓示が行われました。最後に、学生代表の穴田夏樹君から、臨床実習に臨むにあたっての決意表明があり、約1時間の式が終了しました。

「臨床実習生認証式」への思い

専門部教務部長　薗田　精昭

本学では、平成22年度より新5学年生に対して「臨床実習生認証式」を開催することにしました。そこで、この式のもつ意味について少しご紹介したいと思います。

このような式典は、国内では「白衣式」という名称で慶応大学などでも行なわれています。この白衣式は、元々はプロフェッショナリズムを意識させる目的で米国のコロンビア大学で「White Coat Ceremony」という名称で1993年に始められています。その後、またたく間に全米に広まり、さらに世界中で行われるようになっています。大学によっては、「ヒポクラテスの誓い」を唱和させているところもあります。「ヒポクラテスの誓い」は、医師の倫理、任務などについてのギリシャ神への宣誓文であり、神々に、私自身の能力と判断に従って、この誓約を守ることを誓います、と述べます。細かい内容は省きますが、現代の医療倫理の根幹をなす患者の生命・健康保護の思想、患者のプライバシー保護の他、専門家としての尊厳の保持などが謳われています。ですから、ナイチンゲール誓詞を唱和する看護学校で行われている「戴帽式」と通ずる式典と言えます。

挨拶する薗田教務部長

この臨床実習生認証式の大きな目的・意義は、医学生にプロフェッショナリズムを強く意識させることです。プロフェッショナルとは、「高度な知識と技術によってクライアントの依頼事項を叶えるインディペンデントな職業」と定義されますが、医療人としてのプロフェッショナリズムとは、生涯教育を行っていくモチベーション、ヒューマニズム、倫理観、利他主義、チーム医療などすべてが含まれる概念であり、医師になる上で欠かせないものと言えます。ですから、このプロフェッショナリズムを、クリニカル・クラークシップが始まる直前に、しっかりと意識して頂くことが、この認証式の重要な意義となります。

医療人としてのプロフェッショナリズムを医学生に講義で教えることは、とても難しいことです。しかし、私は、この認証式を契機として、新5学年生が今後の臨床実習において「プロフェッショナリズム」を常に意識して主体的に行動することで、本学の教育の理念である「慈仁心鏡を心の規範として生きる医人」への第一歩をしっかりと踏み出すことを心から希望しています。

新入生オリエンテーション

新入生オリエンテーションは、4月6日（火）～9日（金）の4日間行われました。6・9日は、教養部において授業態度の心構え、7・8日の両日は専門部において、講演や附属枚方病院の施設見学、などの話がありました。

専門部オリエンテーション1日目は、「本学のカリキュラムについて」薗田精昭教授（専門部教務部長・衛生学）、「脳梗塞－脳血管内治療でここまで治せる－」日下博文教授（神経内科学）、「舞台は世界に」友田幸一教授（耳鼻咽喉科学）の3講演があり、続いて山田久夫教授（専門部学生部長・解剖学第一）の挨拶、「健康管理室の役割」「学生相談室の役割」のお話、創立80周年記念ビデオの放映がありました。

また、2日目は、「拍動を続ける心臓」松田博子教授（生理学第一）、「ウィルス・ゲノム・がん」藤澤順一教授（微生物学）の2題の講演の後、附属枚方病院の施設見学が行われました。

教養部オリエンテーションにおいては、これからの授業態度等の心構えや実習科目・セミナー科目の説明等がありました。

滝井病院南館臨床講堂で行われたオリエンテーション

学　事

第9回関西医科大学医学会賞　内科学第三講座の村田美樹さんが受賞

3月12日(金)世話係 外科学講座により開催された第126回学内学術集談会で第9回本学医学会賞の応募口演が行われ、続いて開かれた選考委員会で、内科学第三講座・村田美樹さんの医学会賞が決定、3月23日(火)専門部学舎大会議室で行われた学位授与・医学会賞贈呈式において山下敏夫学長から賞状と記念品が渡されました。

バイオマーカーとしての応用を目指します

内科学第三講座　村田　美樹

B型慢性肝炎におけるTGF-βシグナル伝達機構の検討

この度は第9回関西医科大学医学会賞を賜り、誠に有難うございます。大変光栄に思いますとともに、皆様に心より御礼申し上げます。

今回のテーマである「B型慢性肝炎におけるTGF-βシグナル伝達機構」については、平成16年頃より本学内科学第三講座において岡崎和一教授・關壽人診療教授・松崎恒一准教授のご指導のもと研究しております。私達は今までに正常上皮細胞からの癌化過程におけるTGF-βシグナル伝達の検討を行っており、TGF-βシグナルはリン酸化されたSmad3によって伝達され、Smad3リン酸化部位にはC末端部（Smad3C）とリンカー部（Smad3L)が存在し、C末端部リン酸化Smad3（pSmad3C）を介するシグナルは細胞増殖抑制に関与し、リンカー部リン酸化Smad3（pSmad3L）を介するシグナルは癌細胞の増殖、浸潤能に関わると報告してきました。また、最近ではB型肝炎ウイルスのHBx蛋白が発癌に関与していることも知られており、本研究ではB型肝炎ウイルス感染からの肝発癌メカニズムをTGF-βシグナル伝達のSmad3リン酸化に焦点を絞り、HBx遺伝子導入培養肝細胞、HBxトランスジェニックマウス、ヒトB型慢性肝疾患組織を用いて検討しました。結果、B型慢性肝炎の肝発癌においてHBx蛋白がpSmad3Cを介する癌抑制シグナルからpSmad3Lを介する癌化シグナルへの転換を促していることが明らかになり、また発癌には宿主因子(慢性炎症)とウイルス因子(HBx)の両方が重要ですが、発癌過程の早期ではB型肝炎ではC型肝炎と比較してウイルス因子が強く関与していると判明しました。これらの結果はキャリアーや若年者でも発癌するB型肝炎の臨床像に深く関わっていると推測され、今後、Smad3の部位特異的リン酸化を指標に、発癌ハイリスク群の絞り込み、肝炎あるいは肝癌治療の効果を判定するバイオマーカーとしての応用を目指して行きたい。

学長から医学会賞を受け取る喜びの村田さん

学　位　授　与

博士（医学）の学位が次のとおり授与された。

六浦　裕美（課博第862号）平成22年3月23日
「Depression and Anxiety Correlate Differently with Salivary Free Cortisol in the Morning in Patients with Functional Somatic Syndrome」

大西　静生（課博第863号）平成22年3月23日
「Intra-bone marrow-bone marrow transplantation slows disease progression and prolongs survival in G93A mutant SOD1 transgenic mice, an animal model mouse for amyotrophic lateral sclerosis」

中道　尚人（課博第864号）平成22年3月23日
「Synergistic effect of interleukin-6 and endoplasmic reticulum stress inducers on the high level of ABCG2 expression in plasma cells」

吉田　進（課博第865号）平成22年3月23日
「Prevention of contrast-induced nephropathy by chronic pravastatin treatment in patients with cardiovascular disease and renal insufficiency」

蒋　时文（課博第866号）平成22年3月23日
「Involvement of TORC2, a CREB co-activator, in the *in vivo*-specific transcriptional control of HTLV-1」

辰己　貴美子（課博第867号）平成22年3月23日
「Drosophila big brain does not act as a water channel, but mediates cell adhesion」

徳田　貴則（課博第868号）平成22年3月23日
「Mechanical Characteristics of Composite Knitted Stents」

矢吹　輝（課博第869号）平成22年3月23日
「CpG Oligonucleotides Activate the Immune Response in Burned Mice」

小藪　雅紀（課博第870号）平成22年3月23日
「Analysis of regulatory T cells and IgG4-positive plasma cells among patients of IgG4-related sclerosing cholangitis and autoimmune liver diseases」

大重　英行（課博第871号）平成22年3月23日
「Flow cytometric analysis for the mechanism of the new antineoplastic agent temozolomide in glioma cells」

吉村　健（論博第673号）平成22年3月23日
「Increased nitric oxide production by neutrophils in early stage of Kawasaki disease」

三宅　眞理（論博第674号）平成22年3月23日
「Comparative Research between Australia and Japan A Comparison of the Quality of Healthcare in Nursing Facilities Using Actigraphy」

矢内　勢司（課博第872号）平成22年3月31日
「Anti-tumor effects of fusion cells of type 1 dendritic cells and Meth A tumor cells using hemagglutinating virus of Japan-envelope」

石　明（課博第873号）平成22年3月31日
「Intra-Bone Marrow Injection of Donor Bone Marrow Cells Suspended in Collagen Gel Retains Injected Cells in Bone Marrow, Resulting in Rapid Hemopoietic Recovery in Mice」

今井　雄一郎（課博第874号）平成22年3月31日
「Caspase Inhibitor, ZVAD-fmk, Facilitates Engraftment of Donor Hematopoietic Stem Cells in Intra-Bone Marrow-Bone Marrow Transplantation」

学　事

平成22年度科学研究費補助金交付内定者一覧（文部科学省・日本学術振興会）

平成22年度科学研究費補助金は、86件で総額1億6,608万円の交付内定がありました。

（単位：円）No.1

研究種目等	研究代表者			研究課題	交付内定額	
					直接経費	間接経費
特定領域研究 新規	分子遺伝学部門	木梨　達雄	教　授	リンパ球動態異常による免疫系自己の破綻	4,900,000	0
新学術領域研究 継続	生理学第二	中村　加枝	教　授	快と不快による行動決定の学習機構	4,200,000	1,260,000
基盤研究(B) 継続	生理学第二	中村　加枝	教　授	セロトニン・アセチルコリン・ドパミンネットワークによる報酬・嫌悪情報処理機構	1,500,000	450,000
	薬理学	中邨　智之	教　授	弾性線維形成の分子機構の研究	4,400,000	1,320,000
基盤研究(B) 新規	分子遺伝学部門	木梨　達雄	教　授	哺乳類Hippo経路によるインテグリン依存性細胞増殖と機能の制御	6,300,000	1,890,000
	医化学	伊藤　誠二	教　授	慢性疼痛における反応の場脊髄での細胞内情報伝達と細胞間生理活性物質の時空間的解析	6,700,000	2,010,000
	内科学第三	松崎　恒一	准教授	リン酸化Smadを介する肝発癌機構の遺伝子改変マウスを用いた解明	6,200,000	1,860,000
	放射線科学	播磨　洋子	准教授	分子生物学的手法を用いた進行期子宮頸癌の放射線治療抵抗性機構の解明とその克服	5,400,000	1,620,000
基盤研究(B) 海外　新規	医療情報部	塚口　裕康	助　教	難治性腎疾患患克服を目指す小児腎糸球体硬化症のアジア国際共同調査	6,100,000	1,830,000
基盤研究(C) 継続	物理学	木原　　裕	教　授	主にベータ構造からなる3種のSH3蛋白質の動的構造と構造変換	100,000	30,000
	病理学第一	稲葉　宗夫	准教授	並体結合マウスを用いた骨髄内骨髄移植の有効性の検証	800,000	240,000
	公衆衛生学	三宅　眞理	講　師	介護の軽減を目的とした認知症ケアに関する研究	600,000	180,000
	臨床検査医学	髙橋　伯夫	教　授	内因性ジギタリスの構造解析とその電解質・血圧調節に占める役割の解明	800,000	240,000
	内科学第三	岡崎　和一	教　授	自己免疫性膵炎および硬化性胆管炎における発症機序と進展に関する免疫学的研究	700,000	210,000
	総合診療科	小崎　篤志	講　師	血中S100A12タンパク質の動脈硬化および心血管イベントへの関与に関する研究	800,000	240,000
	内科学第二	岩坂　壽二	教　授	虚血性心疾患における酸化ストレスの2面性と抗酸化療法ジレンマに関する研究	400,000	120,000
	神経内科学	中野　　智	准教授	封入体筋炎における動的糖鎖付加の研究	900,000	270,000
	衛生学	佐々木　豊	講　師	骨髄内直接移植法を用いた新規マウス造血幹細胞の同定とその幹細胞特性の解明	500,000	150,000
	病理学第一	比舎　弘子	講　師	ヒトおよびマウスにおける造血幹細胞と間葉系幹細胞間のMHC拘束性の解析	600,000	180,000
	衛生学	植村　靖史	講　師	ヒトNKTサブセットのアジュバント効果を応用したTh17応答制御法の開発	500,000	150,000
	外科学	權　　雅憲	教　授	ファイブロネクチンを用いた多剤耐性緑膿菌制御の検討	1,000,000	300,000
	解剖学第一	若林　毅俊	准教授	血管付き神経移植による視神経再生促進作用の解析	1,100,000	330,000
	眼科学	緒方奈保子	准教授	糖尿病網膜症の発症、進展における全身因子、眼局所因子の関連機序の解明	500,000	150,000
	放射線科学	谷川　　昇	准教授	難治性疼痛を有する脊椎圧迫骨折に対する椎体形成術の除痛機序の実験的解明	1,000,000	300,000
	医化学	芦高恵美子	講　師	神経ペプチドノシスタチン結合タンパク質による疼痛制御	800,000	240,000

学　事

（単位：円）No.2

研究種目等	研究代表者			研究課題	交付内定額	
					直接経費	間接経費
基盤研究(C)継続	心療内科学	阿部　哲也	講　師	慢性疼痛の診断・治療指標候補の一酸化窒素の神経可塑性変化における活性化機構	800,000	240,000
	医化学	畝崎佐和子	助　教	蛍光発色マウスを用いる神経因性疼痛モデルにおける神経再生機構の解明	700,000	210,000
	医化学	片野　泰代	助　教	神経因性疼痛発現維持機構の解明を目的としたプロテオミクス研究	1,100,000	330,000
	整形外科学	菅　俊光	講　師	下肢人工関節置換術後リハビリテーションにおける認知行動療法的アプローチの有効性	1,000,000	300,000
	物理学	楠本(竹本)邦子	講　師	炭素の窓を利用した軟X線顕微鏡での生きた細胞観察の試み	600,000	180,000
	病理解剖	足立　靖	准教授	効率の良い骨髄内骨髄移植法の開発と悪性腫瘍の治療や再生医療への応用	600,000	180,000
	微生物学	藤澤　順一	教　授	HTLV－1感染ヒト化マウスを用いたATLおよびHAM発症機序の解明	1,200,000	360,000
	臨床検査医学	小宮山　豊	講　師	アルドステロンの腎障害機構に対する内因性ジギタリスの保護効果	1,400,000	420,000
	内科学第三	西尾　彰功	准教授	アルコール性膵炎発症における自然免疫の関与と喫煙の影響の解明	1,000,000	300,000
	医療情報部	塚口　裕康	助　教	家族性間質性腎炎の分子遺伝学的研究	1,500,000	450,000
	衛生学	薗田　精昭	教　授	ヒト未分化CD34抗原陰性造血幹細胞の特性解明と再生医療への応用	900,000	270,000
	内科学第一	伊藤　量基	講　師	免疫調節分子OX40リガンドを標的とした炎症性疾患治療への試み	700,000	210,000
	小児科学	高屋　淳二	講　師	エピジェネティクスにかかわるマグネシウムの可能性	1,200,000	360,000
	放射線科学	澤田　敏	教　授	マイクロバブル化炭酸ガスを用いた超短時間型塞栓剤の開発	1,200,000	360,000
	病理学第二	螺良　愛郎	教　授	スルフォラファンのオートファジーを介する乳癌細胞死滅機構の同定と癌治療への応用	800,000	240,000
	耳鼻咽喉科学	岩井　大	准教授	免疫操作による老人性難聴の予防ー分子生物学的機序の解析	1,100,000	330,000
	眼科学	高橋　寛二	教　授	加齢黄斑変性における網膜色素上皮細胞の小胞体ストレスの関与の解明と治療法への応用	1,100,000	330,000
	医化学	松村　伸治	講　師	神経因性疼痛維持の神経細胞－前駆細胞－グリアネットワークの解析と一酸化窒素の役割	900,000	270,000
	衛生学	長谷　真	助　教	ニッチー造血幹細胞間におけるG蛋白質共役型受容体TM7XN1の機能解析	1,200,000	360,000
基盤研究(C)新規	解剖学第一	森　徹自	講　師	NG2細胞の成獣脳ジュノサイドによるin vivo機能解析	1,400,000	420,000
	ドイツ語	菅谷　泰行	准教授	高齢者が語るライフストーリーコーパスの作成と日独対照研究	1,500,000	450,000
	心理学	西垣　悦代	教　授	「健康増進ゲーム」を用いた食生活改善プログラムの開発と効果	1,600,000	480,000
	外科学	神原　憲治	助　教	機能性身体症候群における精神生理学的評価と心理的評価を用いた病態の検討	1,700,000	510,000
	生理学第一	岡田　誠剛	講　師	K＋チャネルの分解による発現量制御	2,400,000	720,000
	生体情報部門	松田　達志	准教授	樹状細胞mTOR経路を標的とした免疫制御の分子基盤	1,500,000	450,000
	小児科学	金子　一成	教　授	モデルマウスを用いた遺伝性腎炎に対する画期的腎再生法の研究	1,500,000	450,000

学　事

（単位：円）No.3

研究種目等	研究代表者			研究課題	交付内定額	
					直接経費	間接経費
基盤研究(C)新規	精神神経科学	吉村　匡史	講　師	統合失調症患者に対する定量薬物脳波学的研究	1,300,000	390,000
	放射線科学	河　　相吉	准教授	標識アネキシンVを用いた放射線誘導アポトーシスとFDG腫瘍糖代謝能の基礎的検討	1,900,000	570,000
	放射線科学	狩谷　秀治	講　師	マイクロバブルジェネレータカテーテルを用いた高密度炭酸ガスマイクロバブル血管造影	700,000	210,000
	麻酔科学	中尾　慎一	准教授	高血糖の脳虚血白質傷害における最終糖化産物受容体の関与とその治療に関する研究	1,500,000	450,000
	泌尿器科学	松田　公志	教　授	腹腔鏡手術における鉗子先端作用力計測と剥離技術分析に関する研究	3,000,000	900,000
	解剖学第一	北宅弘太郎	助　教	ナチュラルキラー細胞遊走過程における子宮微小血管のインターロイキン15発現調整	700,000	210,000
	病理学第二	義澤　克彦	講　師	MNU誘発網膜色素変性症動物モデルにおけるオートファジーの関与とその分子制御	2,100,000	630,000
	眼科学	安藤　　彰	講　師	LDLを利用した高効率な線溶系酵素の発現制御型遺伝子導入による緑内障手術法の開発	1,100,000	330,000
挑戦的萌芽研究継続	公衆衛生学	西山　利正	教　授	中国語医療通訳者育成マニュアルの開発	500,000	0
	放射線科学	播磨　洋子	准教授	放射線抵抗性子宮頸癌の治療戦略としてのTTK／hMps1遺伝子の機能解析	1,200,000	0
挑戦的萌芽研究新規	薬理学	中郡　智之	教　授	弾性線維再生の研究	1,400,000	0
若手研究(B)継続	内科学第二	宮坂　陽子	講　師	左室拡張能と炎症反応性蛋白による心房細動、脳梗塞の予測と予後に関する検討	100,000	30,000
	形成外科学	竹本　剛司	助　教	家兎肋軟骨を用いた移植肋軟骨の彎曲変形に関する実験的研究	500,000	150,000
	モデル動物部門	李　　成一	准教授	組換えH鎖抗体によるインフルエンザウイルスHA開裂阻止と感染防御効果の解析	1,400,000	420,000
	生体情報部門	大谷　真志	助　教	樹状細胞におけるmTORを介したIL－10発現制御機構の解明	1,400,000	420,000
	分子遺伝学部門	植田　祥啓	講　師	Mst1欠損マウスにおける免疫細胞の接着異常による自己免疫疾患の発症機構の解明	1,500,000	450,000
	内科学第三	坂口　雄沢	助　教	自己免疫性膵炎モデルにおける全身性硬化病変の免疫学的研究	700,000	210,000
	皮膚科学	植田　郁子	助　教	サルコイドーシスにおけるγδT細胞の異常と病因病態への関与	1,200,000	360,000
	放射線科学	中谷　　幸	助　教	CT透視下インターベンション時に術者の被曝を低減するシールドの開発	600,000	180,000
	放射線科学	米虫　　敦	助　教	骨セメントが線量分布に与える影響：経皮的椎体形成術と放射線治療の併用療法	1,100,000	330,000
	内科学第二	真鍋　憲市	助　教	造影剤腎症の早期診断バイオマーカーの検討	600,000	180,000
	胸部心臓血管外科学	金田浩由紀	助　教	癌幹細胞ニッチの検索	1,200,000	360,000
	衛生学	成田　弥生	研究員	悪性高熱症素因者新規同定法の開発	1,600,000	480,000
	耳鼻咽喉科学	泉川　雅彦	助　教	難聴動物への内耳再生と機能回復	400,000	120,000
	眼科学	松岡　雅人	助　教	糖尿病網膜症における網膜無血管領域の血管網再構築	1,000,000	300,000
	眼科学	南野　桂三	助　教	緑内障モデルマウスにおけるG－CSFの神経保護効果	1,700,000	510,000

学　事

（単位：円）No.4

研究種目等	研究代表者			研究課題	交付内定額	
					直接経費	間接経費
若手研究(B)継続	形成外科学	覚道奈津子	助　教	幹細胞を用いた脂肪組織再生と血管新生における分子機構の解明	1,100,000	330,000
	衛生学	中塚　隆介	助　教	歯髄由来CD45陰性、Sca-1およびCXCR4陽性幹細胞移植による組織修復	1,600,000	480,000
若手研究(B)新規	分子遺伝学部門	片貝　智哉	講　師	リンパ節ストローマ細胞産生因子群による免疫組織基盤の形成機構	1,600,000	480,000
	臨床検査医学	吉賀　正亨	助　教	中枢神経系における内因性シギタリスを介した高血圧発症メカニズムの解明	1,700,000	510,000
	内科学第三	福井　寿朗	助　教	消化管粘膜における上皮幹細胞マーカーの同定、粘膜再生・発癌メカニズムの解析	1,100,000	330,000
	放射線科学	八木　理絵	専修医	4点連結式経皮的管腔臓器バイパス術の開発	500,000	150,000
	病理学第二	上原　範久	講　師	HDAC制御を介した癌抑制における新規標的マイクロRNAの探索と治療への展開	1,900,000	570,000
	脳神経外科学	畔　　熱行	助　教	電圧負荷式冷蔵庫(氷感庫)を用いた組織保存、再接着の検討	1,000,000	300,000
	救急医学科	齊藤　福樹	助　教	細胞死抑制ペプチド添加人工コラーゲンによる脊髄再生への試み	1,300,000	390,000

（単位：円）

研究種目	内定件数	交付内定額（直接経費）	交付内定額（間接経費）	合　計
特定領域研究	1	4,900,000	0	4,900,000
新学術領域研究	1	4,200,000	1,260,000	5,460,000
基盤研究（B）	7	36,600,000	10,980,000	47,580,000
基盤研究（C）	50	54,000,000	16,200,000	70,200,000
挑戦的萌芽研究	3	3,100,000	0	3,100,000
若手研究（B）	24	26,800,000	8,040,000	34,840,000
総合計	86	129,600,000	36,480,000	166,080,000

平成22年度厚生労働科学研究費補助金交付内定者一覧

平成22年度厚生労働科学研究費補助金は、3件で総額5,005万円の交付内定がありました。

（単位：円）

研究事業名	研究代表者			研究課題	交付内定額	
					直接経費	間接経費
難治性疾患克服	内科学第三	岡崎　和一	教　授	IgG4関連全身硬化性疾患の診断法の確立と治療方法の開発に関する研究	15,000,000	4,500,000
難治性疾患克服	医療情報部	塚口　裕康	助　教	Galloway-Mowat症候群(腎糸球体・脳異形成)診断基準作成のための実態調査	13,500,000	4,050,000
免疫アレルギー疾患等予防・治療	共同研究講座	池原　　進	共同研究講座教授	灌流法により採取された骨髄細胞を用いた骨髄内移植療法：基礎から臨床へ	10,000,000	3,000,000

学　事

平成22年度（平成22年4月～平成23年3月）教務関係日程予定表

1　学　年	
4/5(月)	入学式
4/6(火)・9(金)	新入生オリエンテーション(教養部)
4/7(水)・8(木)	新入生オリエンテーション(専門部)
4/12(月)	前期開講
5/3(月)～7(金)	休講(5月連休)
5/12(水)・13(木)	合宿研修
6/30(水)	休講(創立記念日)
7/16(金)	講義終了
7/20(火)～8/31(火)	夏季休業
9/1(水)	講義再開
9/10(金)	前期終講
9/13(月)～24(金)	前期試験
9/27(月)	後期開講
10/29(金)～31(日)	大学祭
12/22(水)	講義終了
12/24(金)～1/4(火)	冬季休業
1/5(水)	講義再開
1/27(木)	後期終講
2/7(月)～16(水)	後期試験
3/2(水)	卒業式
3/3(木)～8(火)	再試験

2　学　年	
4/1(木)	2学年ガイダンス
4/6(火)	1学期開講
5/3(月)～7(金)	休講(5月連休)
5/15(土)	解剖体追悼法要
5/19(水)	学生定期健康診断
6/30(水)	休講(創立記念日)
7/5(月)～9(金)	試験期間
7/9(金)	1学期終講
7/12(月)～8/20(金)	夏季休業
8/23(月)	2学期開講
10/29(金)～31(日)	大学祭
12/17(金)	2学期終講
12/20(月)～1/3(月)	冬季休業
1/4(火)	3学期開講
2/14(月)～3/11(金)	試験期間
3/2(水)	卒業式
3/11(金)	3学期終講

3　学　年	
3/30(火)	新3学年ガイダンス
4/6(火)	1学期開講
5/3(月)～7(金)	休講(5月連休)
5/15(土)	解剖体追悼法要
5/20(木)	学生定期健康診断
6/30(水)	休講(創立記念日)
7/5(月)～16(金)	試験期間
7/16(金)	1学期終講
7/20(火)～8/20(金)	夏季休業
8/23(月)	2学期開講
10/29(金)～31(日)	大学祭
12/18(土)	2学期終講
12/20(月)～1/3(月)	冬季休業
1/4(火)	3学期開講
1/24(月)～2/10(木)	試験期間
2/14(月)～3/11(金)	分属実習
3/2(水)	卒業式
3/11(金)	3学期終講

4　学　年	
4/3(土)	新4学年ガイダンス
4/6(火)	1学期開講
5/3(月)～7(金)	休講(5月連休)
5/21(金)	学生定期健康診断
6/30(水)	休講(創立記念日)
7/12(月)～16(金)	試験期間
7/16(金)	1学期終講
7/20(火)～8/20(金)	夏季休業
8/23(月)	2学期開講
10/25(月)～28(木)	試験期間
10/29(金)～31(日)	大学祭
12/13(月)～17(金)	試験期間
12/17(金)	2学期終講
12/20(月)～1/3(月)	冬季休業
1/4(火)	3学期開講
2/3(木)・4(金)	CBT共用試験
3/2(水)	卒業式
3/5(土)	OSCE
3/5(土)	3学期終講

学　事

平成22年度（平成22年4月～平成23年3月）教務関係日程予定表

5　学　年	
4/2(金)	新5学年ガイダンス
4/6(火)	1学期開講
4/6(火)～12/24(金)	臨床実習(クリニカル・クラークシップ)
5/3(月)～7(金)	休講(5月連休)
5/20(木)	学生定期健康診断
6/30(水)	休講(創立記念日)
7/23(金)	1学期終講
7/26(月)～8/21(土)	夏季休業
8/30(月)	2学期開講
12/24(金)	2学期終講
12/27(月)～1/3(月)	冬季休業
1/4(火)	3学期開講
1/4(火)～2/25(金)	臨床実習(クリニカル・クラークシップ) ※次年度6学年カリキュラム
2/28(月)	クリニカル・クラークシップ総合試験
2/28(月)	3学期終講
3/2(水)	卒業式

6　学　年	
4/1(木)	新6学年ガイダンス
4/5(月)	1学期開講
4/5(月)～7/3(土)	臨床実習(クリニカル・クラークシップ)
5/3(月)～7(金)	休講(5月連休)
5/21(金)	学生定期健康診断
6/30(水)	休講(創立記念日)
7/17(土)	Advanced OSCE
7/17(土)	1学期終講
7/20(火)～8/27(金)	夏季休業
8/30(月)	2学期開講
8/30(月)～11/9(火)	まとめの講義&卒業試験
11/10(水)～12(金)	総合試験
11/12(金)	2学期終講
11/15(月)	冬季休業開始(以降自習期間)
3/2(水)	卒業式

注）休講日及び休業期間においても試験・授業等を行うことがあるので、注意すること。

医療安全管理センター

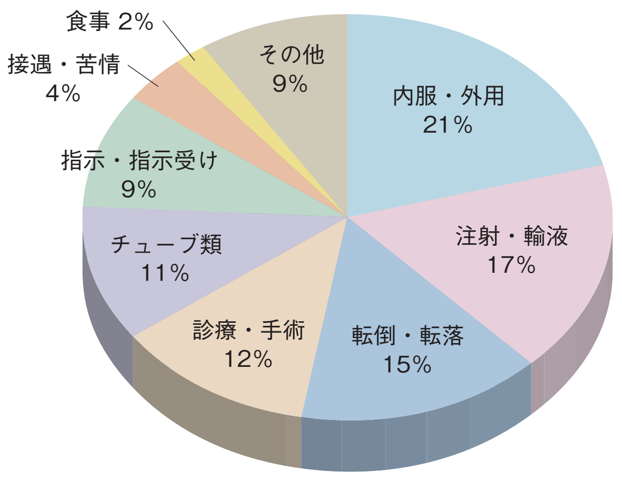
平成21年インシデント報告集計

同センターでは、このほど平成21年度の附属病院でのインシデント報告の集計をしました。それによると総報告数は、8,940件でした。このインシデント報告は過失の有無とは無関係で、医療行為とは直接関係のないものも含めて医療安全にかかわるすべての事例を集計しています。

インシデント内容(右図)は､「内服・外用」21%､「注射・輸液」17%、「転倒・転落」15%と上位3位を占めています。

患者への影響レベル別インシデント報告数は、下表の通りです。

図

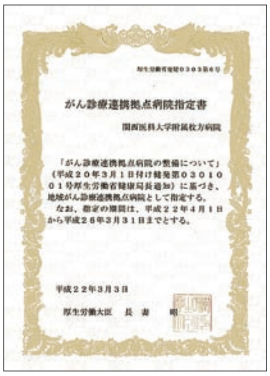


表

事故が発生する前に気がついた	事故は発生したが、患者への実害はなかった	観察強化などが必要であるが、処置や治療は不要であった	処置や治療を要した	総　計
1,712件	4,500件	1,861件	867件	8,940件

病　院

附属枚方病院


がん診療連携拠点病院指定書

関西医科大学附属枚方病院

「がん診療連携拠点病院の整備について」（平成２０年３月１日付け健発第０３０１００１号厚生労働省健康局長通知）に基づき、地域がん診療連携拠点病院として指定する。
なお、指定の期間は、平成２２年４月１日から平成２６年３月３１日までとする。

平成２２年３月３日

厚生労働大臣　長　妻　　昭

「地域がん診療連携拠点病院」に指定される

4月1日付で、厚生労働省から「地域がん診療連携拠点病院」に指定されました。

がん医療の「均てん化」を推進するために、各都道府県による推薦をもとに、厚生労働省が指定した病院です。今後は、質の高いがん集学的治療に努めるとともに、二次医療圏におけるがん医療の中心的な役割を果たしていくことが使命となりますので、関係の皆様にはご理解とご協力をお願いいたします。

※均てん化：生物が等しく雨露の恵みにうるおうように各人が平等に権利を得ること。

90秒で完成するエアーテント

有事に活躍、陰圧対応エアーテントを導入

2月24日(水)に感染症に対する陰圧機能を持ったエアーテントが導入されました。これは大阪府の新型インフルエンザ対策としての補助金により購入されたものですが、今後の強毒性の新型インフルエンザへの対応や災害時のトリアージテントとしての利用も可能です。

関係者の立会いのもとで実際に組立が行われましたが、エアーポンプにより、柱に空気が注入され、本体は約90秒で立ち上がります。前室のテントや陰圧空調装置や照明器具など付属品をセットしても1時間程度で設営が可能で、有事の際には活躍が期待できそうです。

第1回肝臓・腎臓移植患者様友の会

「第1回肝臓・腎臓移植患者様友の会」が1月30日(土)13階会議室で行われ、当院で手術施行された肝臓および腎臓移植のドナー、レシピエント患者、また患者家族ら合計70名もの人が参加されました。

第1部の講演では、移植後の生活、食事、薬、感染症、運動療法に関してそれぞれ看護部、管理栄養部、薬剤部、中央検査部、内科医師、健康科学センター担当者からの講演、第2部は各部署担当者との質疑応答があり、非常に活発な討議が行われました。

今後、年1回開催予定ですが、患者・家族から、さらなる情報交換のため年2回程度開催してほしい旨の強い要望がありました。当院ではこれまでに生体肝移植術は29例、生体腎移植術は15例行われています。

移植後の生活など活発な討議

新人看護師振り返り研修

ユニークな賞に歓声

2月17日(水)、23日(火)の2日間、新人看護師研修の1年を締めくくる研修が開催されました。グループで「こんな看護師を目指したい！」というスローガンを掲げて、今までに多くの研修をクリアーしてきました。今回の研修ではこの1年間を振り返り、個々のエピソードを話しながら、お互いの成長を確認し合うことで、次年度の目標もできました。

研修終了後にはサプライズ企画として、今村洋二病院長、竹林俊雄事務部長、安田照美看護部長らによる「研修修了証書」の授与式が行われました。修了書にはそれぞれの病棟の師長・副師長、先輩看護師により、「いつも笑顔で頑張ったで賞」、「ぐーんと成長できたで賞」など、その人にふさわしいネーミング賞と心をこめたメッセージが書き込まれ、病院長が読み上げるごとに歓声に包まれました。事務部長、看護部長からのエールも華を添え、モチベーションは最高潮に盛り上がりました。

病院長が読み上げるユニークな賞に歓声

病　院

附属滝井病院

病院長交代式　髙橋教授から岩坂教授へバトンタッチ

「ご苦労様でした」職員から花束贈呈を受ける髙橋前院長

3月31日付で髙橋伯夫病院長が退任、4月1日付で内科学第二講座の岩坂壽二教授が新病院長に就任されたことにより、4月1日(木)午後4時から本館6階大講堂において病院長交代式が行われました。髙橋教授の退任挨拶、岩坂教授の就任挨拶があり、その後、花束贈呈が行われました。

肝疾患センターと松下記念病院共催　よくわかる肝臓病セミナーを開催

270名を超える人気があった肝臓病セミナー

肝臓の病気を専門とする医師がわかりやすく解説する市民向けの公開講座として、肝疾患センターでは松下記念病院と共催で「よくわかる肝臓病セミナー」を3月6日(土)守口文化会館エナジーホールにおいて開催しました。

講演は消化器肝臓内科：池田耕造先生による「肝臓病の血液検査」、消化器肝臓内科：福島慎太郎先生による「よくわかるB型肝炎」、松下記念病院からは消化器科：長尾泰孝先生による「よくわかるC型肝炎」の3題を行い、「質問コーナー」では松下記念病院：沖田美香先生の司会のもと、当日多く寄せられた質問を専門別に講師から答える形で進行されました。当日は270名を超える方が聴講され盛況なうちに終了しました。

大阪府肝疾患連携拠点病院　医療従事者を対象に北河内肝臓病セミナー

大阪府肝疾患診療連携拠点病院として北河内医療圏の肝疾患に対する病診連携を深めるため、肝疾患センターでは地域の医療従事者を対象に北河内肝臓病セミナーを1月23日(土)に守口ロイヤルパインズホテルにおいて開催いたしました。

セミナーでは拠点病院からの情報発信と位置づけて、肝疾患センターの役割や情報提供を行い、また、特別講演として、独立行政法人国立病院機構長崎医療センター治験研究部長の八橋弘先生による特別講演「肝がん撲滅を目指した肝疾患領域での病診連携のあり方－肝疾患診療での専門医と一般医家の役割について－」を行い多数の参加者を得ました。

第12回市民公開講座に200名超え

「ここまで進んだガン治療」テーマに

今回で12回を迎えました附属滝井病院の市民公開講座が2月6日(土)午後2時から午後4時30分まで守口文化センターエナジーホールにおいて開催され、206名の方が聴講されました。

市民公開講座の模様

テ　ー　マ：「ここまで進んだガン治療」
講演内容：「ここまで進んだ胃ガン治療」
外科・中井宏治 助教
「からだに優しい胃・大腸がんの内視鏡治療」
消化器肝臓内科・西尾彰功 准教授
「ここまで進んだ肺ガン治療」
血液呼吸器膠原病内科・清水俊樹 講師
「緩和ケアチームの活動について」
看護部・山岡月子 看護副師長

5月から外来化学療法室が稼働

外来化学療法を行う関連各科が協力して、より安全な治療と業務の効率化を計るため、本館2階内科処置室を改修し、「化学療法室」として5月10日(月)から稼働しました。

卒後臨床研修センター

平成23年度　臨床研修合同説明会に学内外の学生75名

熱心に聞き入る参加者

平成23年度の臨床研修医募集のために附属枚方病院・附属滝井病院臨床研修合同説明会が4月17日(土)午後3時からリーガロイヤルホテルにおいて催されました。

本学学生62名と学外学生13名、合計75名が参加、山下敏夫学長、今村洋二附属枚方病院長、岩坂壽二附属滝井病院長からの挨拶の後、木下利彦卒後臨床研修センター長からは本学の臨床研修プログラムや待遇等についての説明、澤田敏副学長、松田公志教授、平川昭彦講師からは本学の臨床研修に対する種々の取り組み等の説明が行われました。また、現役専修医・臨床研修医からの研修体験談等もあり、参加者は熱心に聞き入っていました。各診療科指導医や関連の済生会泉尾病院の研修担当者も出席し、盛会のうちに終了しました。

臨床研修医ワークショップ　多彩な講習、親睦も深まる

臨床研修医採用時オリエンテーションの一環として、4月3日(土)～4日(日)の1泊2日で神戸市「スペースアルファ神戸」においてワークショップが実施されました。聖路加国際病院の福井次矢病院長、NPOささえあい医療人権センターCOMLの辻本好子理事長、岸和田市民病院の亀井有子師長を外部講師として招聘し、ワークショップの進行にご尽力いただきました。

講習会のプログラムには、患者サービス、チーム医療、医療人としてのコミュニケーション、基本的な臨床能力、指導医と臨床研修医の望ましい関係、医の倫理、また、先輩臨床研修医からの研修体験談など、本学で臨床研修を開始するにあたって有用となる多彩な講習が組み込まれており、夜には懇親会にて親睦を深めるなど、新採用臨床研修医からは好評を得ました。

グループ討議する新採用臨床研修医

平成20年度臨床研修医51名が研修を修了

3月18日(木)午後4時から守口ロイヤルパインズホテルで開催されました研修管理委員会において、平成20年度採用臨床研修医51名(附属枚方病院43名、附属滝井病院8名)全員の2年間の臨床研修修了が認定されました。

臨床研修修了式は3月26日(金)午後6時から附属枚方病院13階合同カンファレンスルームにおいて挙行され、今村洋二附属枚方病院長・髙橋伯夫附属滝井病院長からそれぞれ修了証書を手渡された臨床研修医は晴れやかな顔が印象的でした。

＝修了証書を手渡され、ニッコリ

クリニカル・シミュレーションラボ開設

従来、研修棟内に設置されていたシミュレーション室の設備を拡充し、3月1日(月)、クリニカル・シミュレーションラボが附属枚方病院内に開設されました。室長に泌尿器科学講座、松田公志教授が就任され、高度なシミュレーターを豊富に取り揃えました。

医師、臨床研修医、学生、看護師など幅広く活用いただけるシミュレーション機器をご用意しており、一部機器の貸出も行っています。ぜひご利用ください。

ご利用に際しては、卒後臨床研修センター枚方分室までお問い合わせください。

平成22年度採用臨床研修医は45名

平成22年度採用の臨床研修医は、附属枚方病院37名(うち本学卒業生29名)、附属滝井病院8名(うち本学卒業生6名)の合計45名を4月1日付で採用しました。昨年度と比べると、附属枚方病院は16名の増、附属滝井病院は1名の増で、合計では17名の増員となりました。

附属看護専門学校

入学式挙行　人間愛、慈愛、親切、そして共感

平成22年度本学附属看護専門学校入学式が、4月6日(火)午前10時から同校において、塚原勇理事長、山下敏夫学長、關壽人附属専門学校長はじめ教職員、来賓、保護者多数の出席を得て挙行されました。

關 学校長式辞

本日は入学おめでとうございます。

関西医科大学附属看護専門学校の教職員を代表して心から歓迎の意を表するとともに、責任の重さを感じています。また、皆さんの勉学を今日まで支援し、励ましてこられたご両親をはじめ、ご家族や保護者の皆様方にも心からお祝いを申し上げます。ご来賓の皆様方には、本日はまことにお忙しいところ、新入生のためにご臨席を賜り、衷心よりお礼申し上げる次第です。関西医科大学は昭和3年(1928年)に創立された輝かしい歴史と伝統をもつ私立医科大学でありますが、その附属看護専門学校である本校も、昭和7年(1932年)に附属看護婦養成所として開設された歴史ある看護専門学校です。

本年は女子78名、男子5名、計83名が入学されましたが、新入生の皆さんは、本日からこの伝統ある関西医科大学の看護学生として、誇りと責任を持って是非、充実した学生生活を過ごしていただき、確固たる専門能力と幅広い教養とを備えた人間性豊かな人材に育っていただきたいと思います。

新入生83名を代表してあいさつする山内彩加さん

告辞する關学校長

皆さんは、今、喜びと期待で夢は大きく拡がっていることと思います。しかし皆さんの夢を現実のものとするためには、これからの3年間、厳しい看護専門教育を履修しなければなりません。看護に関する専門科目の講義はもちろん、関西医科大学の各附属病院での実習や、さらには校外での研修など、たくさんのカリキュラムが皆さんを待ちかまえています。また、その過程で、患者さんを含め、医療に関わる多くの人々と出会い、関わって行くことになります。出会いのとき大切なのは、言葉遣いです。韓国のことわざに「往(い)く言葉が美しければ、来る言葉も美しい」とあります。日本の「売り言葉に買い言葉」の裏返しですが、是非、美しい言葉を使ってコミュニケーションをはかるようにして下さい。

皆さんは将来看護師になるためには、専門知識の習得が第一と考えていると思います。もちろん看護の知識・技術の修得は大事です。しかしそれと同等あるいはそれ以上に大事なことがあります。それはHumanityとSympathyです。

人間愛、慈愛、親切、そして共感です。

HumanityとSympathyは座学の勉強では身につきません。なぜなら、HumanityとSympathyはヒト対

附属看護専門学校

ヒトの接触からうまれる感情だからです。実はこの感情は、皆さんの今までの人生の中で、いろんなヒトとの出会により培われてきたはずです。だからこそ皆さんは看護師を目指そうと思われたと思います。今後もこの気持ち、感情を忘れないで下さい。3年間の看護専門学校での営みの中で、さらに、より豊かな心と思いやりの心を養うこと、それが有能で心優しい看護師に育つ第一条件です。

ただ、看護の道を志した皆さんの当面の目標は、本校を無事卒業し、看護師国家試験に合格することです。この3年間は時間的にかなりハードな学生生活が要求されますが、くじけず是非頑張って下さい。

この3年間の学生生活にて皆さんが挫けない方策は、自分自身が将来看護師になるとの強い意志を持ち続けることです。そして皆さんのその意志を、率先して、教職員一同、精一杯支えています。もちろん、保護者の皆様方も含め、周囲の皆さんの協力も是非必要です。

本校の教職員、実習先の指導者のすべてが、皆さんのよき理解者と思って下さい。そうすれば、自然に教職員・実習指導者からほめられたいと思うようになります。そしてほめられることは皆さんの成長を意味することになります。そして特に強調したいことは、人の役に立ち、人に必要とされる仕事を目指す立場にある幸せを、常に感じ続けることです。そうすれば、今後3年間、充実した学生生活を過ごせるはずです。

最後になりますが、3年後の春4月には皆さんが看護師として、社会に奉仕する一員となっていることを願い、私の式辞といたします。

第99回看護師国家試験

合格率　97.6%

3月26日(金)看護師国家試験の発表があり、本校平成21年度卒業生85名の受験者中83名が合格し、合格率は97.6%と全国平均を上回る結果となりました。

なお、全国の合格率は89.5%でした。

インドでのボランティア活動に参加して

患者に寄り添うことの意味、体験生かしたい

附属看護専門学校　**中井　悠野**

期間：2009年8月18日～9月1日

私は夏休みを利用し、興味を持っていたインドのマザーテレサの療養施設でボランティア活動を行いました。日本は国中にたくさんの物があふれており、医療の場でも医療機器や援助の道具など、病院の環境は大変充実しています。しかしマザー施設では、足浴を行うバケツ1つないというのです。そのような土地で患者に出会い、自分が何を感じ、何を考えるのかが知りたく参加しました。

私が訪れた施設は、部屋は薄暗く小さなベッドのシーツは汚れが目立ち、日本の病室とは程遠い環境でした。しかし、患者からすれば安心して眠れるベッドがあることはこの上ない幸せなのだろうと、コルカタの治安を見て思いました。

マザーテレサのお墓

私が行った援助は、食事・排泄介助、食器洗い、配薬とわずかでしたが、生活様式が異なるため援助を行うことは困難でした。何かを伝えようと私に一生懸命話をしてくれた患者がいましたが、言葉がわからず患者の思いを想像することしかできませんでした。うなずくことしかできず、もどかしく思っていると、患者は涙を流し私の手の甲にキスをしてくれました。突然のことで驚きましたが、少しでも心の支えになれたと思いうれしかったです。

日本人シスターにマザーのエピソードをお聞きする機会がありました。マザーは患者に「私は今あなたのためにいます。あなたの存在は大切です。」と“相手の存在を認めている”という言葉をかけ関わったそうです。私は施設で出会った患者の言葉や思いは理解できませんでしたが、患者と向き合い、同じ時間を過ごせたことで相手の存在を認める関わりができ、患者はそのことに感謝の涙を流してくれたのかもしれません。寄り添うことの意味を深く理解しました。

この体験をこれからの実習や学習に活かし自分の看護観を養いたいです。

大学情報センター

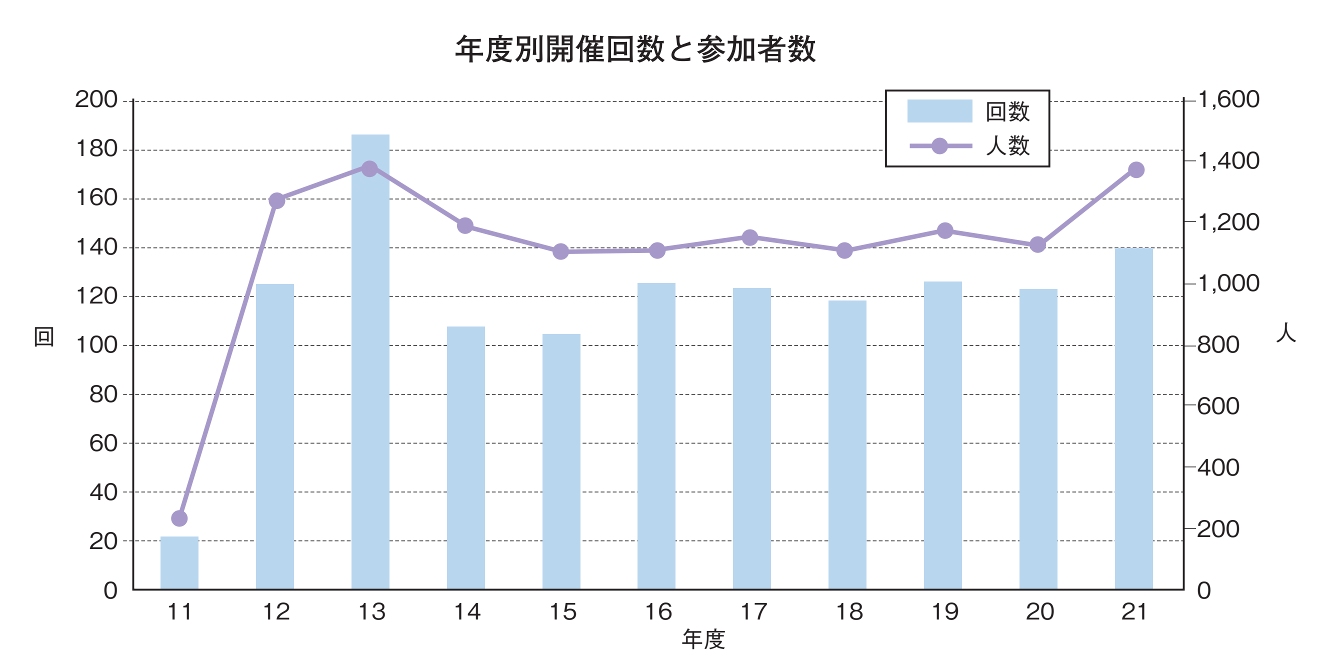
パソコン講習会　年間1000回超え　この機会にスキルアップを

大学情報センター学術部では、学生及び教職員を対象にして、毎年、定期的にパソコン講習会を開催しています。昨年度からは、附属枚方病院医療情報部と共催で枚方地区でも講習会を始めました。講習会は、年間開催数が100回を超え、年間参加延べ人数も1,000人を超える実績を残しています。無料で受講できるこの機会を活かしてスキルアップしましょう。皆さんの参加を心よりお待ちしています。

・滝井地区：Office 2007(Vistaパソコン)を中心とした講習会
・枚方地区：Office 2003(XPパソコン)を中心とした講習会

講習会の日程、内容、申込み状況については、「http：//www.tnoc.kmu.ac.jp/」にアクセスして「教育・研修」欄の「パソコン講習会」をご覧下さい。

・パソコン講習会開催実績



平成22年度前期・パソコン講習会（枚方地区）

講習内容	開催日	曜日・時間	場所
Windows基本操作（1回）	5月11日～5月13日	火・木曜日 午後5時30分～7時40分	情報ライブラリー室 附属枚方病院1階
Word 2003（6回）	5月18日～6月24日		
Excel 2003（8回）	6月29日～8月19日		
スキャナ（1回）	8月24日～8月26日		
PowerPoint 2003（4回）	8月31日～9月30日		
ポスター作成（1回）	10月5日～10月7日		

平成22年度・学外講師によるパソコン講習会（滝井地区）

講習内容	開催日	曜日・時間	場所
Windows基本操作（1回）	5月12日～5月14日	（基本） 水・金曜日 午後6時～8時30分	医学情報処理室 大学1号館 附属図書館内4階
PowerPoint 2007（4回）	5月19日～6月11日		
Word 2007（4回）	6月16日～7月9日		
Excel 2007（6回）	7月14日～8月20日		
セキュリティ（1回）	8月25日～8月27日		
Acrobat V.9（1回）	9月1日～9月3日		
Photoshop CS（4回）	9月8日～10月8日		

キャンパス　ニュース

学園祭を終えて

大学祭実行委員長　小川　智永(5回生)

昨年度学園祭も終わり、平穏をとりもどし、無事に進級して今はクリクラを頑張っています。学園祭を振り返ってみた正直な感想は、疲れました(笑)。

嵐のようなインフルエンザに翻弄され、学園祭直前の中止決定による大赤字、それによる資金集めに、経費削減、大学の要望や、学生の要望のとりまとめ、本来なら、学園祭が終わってから勉強にうちこむはずのCBT、新しく加わった病理学のカリキュラムと、本当にこれでもかと言うぐらいに災難が続きました。今思い返しただけでも、ぞっとするような大変さでした(笑)。

しかし、これだけの災難にもかかわらず、学園祭を成功できたのは、まず何より、学生のみなさんが本当に一生懸命にがんばってくださったおかげだと思います。当初、11月の学園祭中止による、モチベーションの低下から、みなさんにはよくここまで頑張っていただけたなと、心より感謝する次第です。僕が実行委員長として至らなかった点や、みなさんにご迷惑をおかけした点が多々あったかも知れませんが、先輩方や後輩たちの笑顔を見て、本当にやりきってよかったなと思いました。また、学生みなさんが一丸となって学園祭を成功できたことは、10年後、20年後と、学生のみなさんが社会にでたとき、よき大学生活の思い出の一ページになることと信じています。

もちろん、学生のみなさんの頑張りだけでなく、大学の諸関係者の皆様には、学園祭を行うにあたって、仕事が何重にも増えているにもかかわらず何度も助けていただきましたし、各スポンサー企業も本当にご理解のある方たちばかりで、非常に助けていただきました。心より厚くお礼申し上げます。また、昨年度私たちに頂きましたご協力同様、今年度後輩たちの学園祭におきましてもご支援頂ければ幸いです。

最後に、学園祭のよき思い出ができたこと、辛いときに助けられた、かけがえの無い友との友情を深め合うことができたことは、一生の宝だと思っています。嵐のような学園祭も、何百、何千という沢山の方々のおかげで無事に終えることができ、本当に良い経験をさせていただきました。本当に感謝の念でいっぱいです。重ね々ね厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。

盛り上がりを見せるステージ

2月開催となった霜月祭

学生相談室

一人で悩まず気軽に相談しよう

火曜・金曜の正午～午後6時

一人で悩まず気軽に相談を。環境変化や刺激に富んだ学生生活において、様々な問題や不安に直面する場面が、学生には多々あります。学生相談室は、そのような時に学生が相談できるところです。

全ての学生が資格試験を目指しているという医学部の性格上、一般の大学生に比べても心身の負担は大きいものと考えられます。同時に年齢的には一部の精神疾患のおきやすい時期でもあるため、心身両面から早期に適切な対応することが重要でもあります。このように学生相談室では、将来、医師を目指す学生達の、健全な育成と、学生生活の充実を目指し、サポートに取り組んでいます。

＜ご利用案内＞

相談希望の方は、メールや電話で予約することができます。(問合せ先は、右記を参照下さい)

直接学生相談室に来ることも可能ですが、面接中などお会いできない場合がありますので、なるべく事前予約をお勧めします。

緊急時は直接来室するか、もしくはお電話でご相談ください。

本人が来室できないときは、ご家族や友達に来室していただくこともできます。

相談は無料です。

話の内容、プライバシーは守られます。

＜開室日時＞　毎週火曜日・金曜日12：00～18：00

＜場　　所＞　附属滝井病院5号館(南館)2階
学生相談室(臨床講堂控室)
(臨床講堂の向かいの扉を入って、すぐ左側にある部屋)

＜連 絡 先＞　soudan@takii.kmu.ac.jp
(開室時間に確認のため返事が遅れる場合があります)
内線2802(不在時は健康管理室へ)

＜担 当 者＞　内藤ゆみ(臨床心理士)

内部監査室

平成21年度(後期)の内部監査

内部監査室長　稲垣　千代子

平成21年度(後期)の内部監査として、「医療安全活動」の業務監査および理事長特命監査「医師の出退勤管理」の監査を実施しました。

「医療安全活動」：本学の医療安全活動が関係諸規程に則して行われているかを、各規定内重要事項についてのアンケート形式で関係部門より回答頂きました。諸記録等の資料を添えた回答およびヒアリング内容を点検した結果、本学の医療安全活動の業務遂行状況は概ね良好であり、附属枚方病院の医療安全管理センター運営委員会、医療安全管理対策委員会、医療事故対応委員会、医療事故調査委員会、患者相談窓口、安全衛生委員会、および附属滝井病院の医療安全管理対策委員会、医療事故対応委員会、医療事故調査委員会、セーフティーマネージャー委員会等は規定に添って委員会審議と議事録作成を行い、安全な医療の推進に努めています。今後は、医療事故対応委員会に付議された事故の常任理事会への報告規定を確実に実施し、医療事故情報を理事会と共有すべきことを指摘しました。

「医師の出退勤管理」：医師の出退勤の管理状況を総務部庶務課、附属枚方病院管理課および附属滝井病院管理課にて調査しました。医師の勤務状況は出勤表(1日単位押印形式)と宿日直・待機管理システムで管理され、他の職種の勤務月報に相当する勤務時間管理簿が存在しません。教育・研究職としての医師の裁量労働的側面の取扱いに困難はあるものの、過重労働予防指導・時間外労働適正化及び適正手当・人員配置計画等の参考資料となるべき労働時間管理データは不足しています。常任理事会および関係委員会でも新たな施策が検討されつつありますが、関連する諸問題の分析と解決に時間を要しています。学内外からの要請に応えるべく、医師の労働時間管理基準と適切なデータ作成基準の整備を慎重かつ早急に進める必要があることを指摘しました。

同窓会

関西医科大学同窓会誌　「おとづれ」にご投稿ください

同窓会誌「おとづれ」は、ご承知のように同窓会員の皆様の投稿によって成り立っております。同窓会研究助成各賞受賞報告等の学術関連記事、エッセイ、随筆、旅行記などの内容で、「会員寄稿」「支部だより」「クラス便り」「ニュースあれこれ」「偲び草」「新年会」「同窓会総会」等各種パーティーの記録等に分けられておりま す。また「おとづれ」は「同窓会のページ」と「加多乃会のページ」に分かれておりまして、右開きで「タテ書き」が同窓会の頁であり、左開きの「ヨコ書き」が加多乃会の頁です。

「会員寄稿」の頁には、かって福島昌彦氏(31回生)が、「あごひげ診療譚」と題する随筆を長年にわたり連載され好評を博しました。昭和50年から平成19年にいたる実に30有余年にわたり、第1回より絶筆となった第65回まで書き続けてくださいました。ウィットに富む軽妙な筆致は、「面白い」と多くの人々に愛されました。「おとづれ」が届いたら、まず、『あごひげ』から読みます」という同窓生も多かったようです。またご自身も『あごひげ』の執筆を楽しんでおられたようでした。その福島氏が逝去されてから、この頁は急に淋しくなりました。困った編集部では、各支部にお願いして、輪番制で必ず支部から1篇は投稿していただくことといたしました。おかげさまで、現在までに大阪支部、京都支部、兵庫支部、姫路支部と順調にご協力いただいております。

そこで更にお願いですが、支部からの1篇とは別に、福島氏に続く文筆家の出現を係りでは待望しております。ご多忙とは存じますが、ぜひ「会員寄稿」へのご投稿をお願いいたします。

比較的最近スタートした「クラブ便り」も好評です。文科系クラブと運動クラブに分け、OB・OGの方々にお願いして、各クラブの歴史や活動状況を、過去から現在にいたる数々の思い出とともに綴って頂いております。現在までにご紹介いただいたのは、「野球部」「茶道部」「卓球部」「関西医科大学混声合唱団コールクライス」「軽音楽部」「軟式庭球部」「カヌー部」であります。超多忙を理由に、なかなか原稿をいただけないクラブもありますが、各クラブにおかれましては、続いてどうぞよろしく青春の思い出を思い切り熱く語って頂ければ幸いです。

「俳壇」の頁も充実しております。通算19回に及びました。毎回感性溢れる、すぐれた俳句が登場しております。最近のブームにあやかって、若い世代の投句があれば…と願っております。

なお、「おとづれ」は年2回発行で、締め切りは毎年6月15日と12月15日となっておりますので、各号にぜひご投稿をお待ちしております。

「おとづれ」編集部

会　告

平成22年度　支部長会・評議員会・総会・懇親会

開催日　平成22年5月30日（第5日曜日）
場　所　守口ロイヤルパインズホテル

関西医科大学同窓会
TEL 06-6993-0121
FAX 06-6991-6221

メディア情報

教職員メディア情報

新聞・雑誌・テレビ等マスコミの取材、テレビ出演、また記事を掲載された教職員の方々を紹介します。

（平成22年1月1日～4月30日）

木村　穣　教授 （健康科学）	産経新聞 夕刊1月6日（水）	京阪電鉄と本学がタイアップし、「京阪健康沿線構想」を推進するという内容。京阪電鉄の主要駅構内に健康診断ブースを設置、血圧や血糖値を測定、データを本学に送り医師が診断、食生活や運動方法のアドバイスをインターネットで各家庭に配信するという仕組み。「駅ナカビジネス」の新形態として全国初の試みとして紹介されています。
	ABC朝日放送 おはよう朝日土曜日です 1月16日（土） 午前6：30～8：00	「これ知恵ック」コーナー「今こそマラソンを始めてみよう！」の中でマラソンをするに当たっての健康上の注意点が話されています。
	テレビ大阪 ニュースBIZ 2月16日（火） 午後5：13～5：30	週刊オムニス関西「関西流駅ナカ活用法」と題し、医療機関と鉄道がコラボレーションした京阪健康沿線構想について附属枚方病院健康科学センター・木村教授により語られています。
末広　智子　看護師 （枚方）	読売新聞 朝刊2月19日（金）	子供のスキンケアに関する記事の中で認定看護師（皮膚・排泄ケア）としてのコメントが紹介されています。
覚道　奈津子　助教 （形成外科学）	朝日新聞 朝刊2月27日（土）	大阪対ガン協会から平成21年度ガン研究助成奨励金を贈呈されたという記事が掲載されました。
西山　利正　教授 （公衆衛生学講座） 三島 伸介　助教 （公衆衛生学講座）	関西テレビ スーパーニュースアンカー 3月4日（木） 午後4：53分～7：00	注目の医療ツーリズム「中国の富裕層を狙え！」と題して特集しています。附属滝井病院で渡航外来を担当されている西山教授と三島助教が医療通訳の問題を取り上げています。
須藤　昭子氏 （本学卒業生）	産経新聞 夕刊3月8日（月）	ハイチで34年前から慈善活動をしている本学卒業生須藤京子さんが紹介され、併せて本学における義援金活動が紹介されました。
中谷　壽男　教授 （救急医学科）	読売新聞 朝刊3月19日（金）	第二京阪道路開通にあたり、救命救急センターの役割や附属枚方・滝井病院の連携等についてインタビュー記事が掲載されました。
岡崎　和一　教授 （内科学第三講座）	日本経済新聞 朝刊3月29日（月）	岡崎和一教授と京都大学の淀井淳司教授らにより、消炎鎮痛剤の副作用をたんぱく質投与で防げる方法を発見したとの記事が掲載されました。

聖路加国際病院　日野原先生が特別講演

戦略的大学連携支援事業記念講演は、聖路加国際病院理事長・日野原重明先生を招き3月6日（土）午後12時30分から立命館大学朱雀キャンパスで開催され、同時に本学とも遠隔システムによって生中継、会場となった専門部学舎1号館第1講堂には、学生や教職員ら多数が参加しました。

テーマは「日本の医療をどう改革すべきか―医療を受ける人々の立場に立って―」。長年にわたり医療界で活躍されている日野原先生の講演は、日本の医療が抱える問題、将来の高度医療体制整備に不可欠な人材、今後期待される教育研究等など興味深い内容でした。

戦略的大学連携支援事業の「理工医薬融合型ライフサイエンス高度専門教育システムの創成」とは、平成21年度文部科学省「教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム」の採択を受けて、立命館大学と本学とが連携して、ライフサイエンス分野における高度専門人材育成の教育体系を新規に確立することを目的とした取り組みです。

お知らせ

7月開院する関西医科大学香里病院

関西医科大学香里病院がこのほど竣工、関西医科大学の3番目の附属病院として7月1日開院、診療を開始することになりました。竣工式・施設披露は、6月5日(土)寝屋川市の新香里病院で行われます。

「慈仁心鏡を礎に地域とともに歩む病院」を基本理念としており、地域に開かれた大学病院としての役割を、より積極的に進め、プライマリーケアから高度専門の医療機能を有する病院を目指します。また、医学生や卒後の医師をはじめとした医療人の臨床教育の機能も担います。

病床数：200床(一般病床)
診療科：内科、小児科、外科、乳腺外科、整形外科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻いんこう科、婦人科、放射線科、麻酔科、リハビリテーション科

屋外看板も真新しい香里病院の外観(5月1日撮影)

公式webサイト全面的リニューアル

関西医科大学、附属枚方病院、附属滝井病院、附属看護専門学校、卒後臨床研修センターの5サイトの公式webサイト全面的再構築がこのほど完了、5月12日から新サイト公開をはじめました。変更サイトURLは下記のとおりです。なお、香里病院については、準備中です。(大学は変更ありません)

部　署	新URL	旧URL
附属枚方病院	http://www.kmu.ac.jp/hirakata/	http://www2.kmu.ac.jp/hirakata/
附属滝井病院	http://www.kmu.ac.jp/takii/	http://www2.kmu.ac.jp/hospital/
附属看護専門学校	http://www.kmu.ac.jp/nurscoll/	http://www2.kmu.ac.jp/nurscoll/
卒後臨床研修センター	http://www.kmu.ac.jp/residency/	http://www2.kmu.ac.jp/residency/

「関西医科大学 広報」年4回発行

原稿、ご意見お寄せください

「広報」は、関西医科大学と教職員、学生、同窓生、保護者を結ぶコミュニケーションツールの一つです。年4回、季刊号として発行します。皆様からの記事の提供、企画、ご意見などありましたら、広報課まで連絡よろしくお願い致します。

送付先変更の場合はお知らせを

「広報」の送付先の変更が生じた方は、官製はがき、ファックス、E-mailにて郵便番号・住所・氏名等を記入の上、広報課までお知らせください。

編 集 後 記

もうすぐ6月。大阪管区気象台によると「平年と同様に曇りや雨の日が多い見込み。寒気が南下し、一時的に気温の低くなる時期がある」とのこと。昨年は、6月3日頃に梅雨入りしましたが、今年は、どうなりますかね。梅雨と聞くだけで「うっとおしい」と感じますが、この時期になると必ずラジオから流れてくる曲があります。Listen to the rhythm of the falling rain…ザ・カスケーズの「悲しき雨音」。60年代にヒットした曲です。カミナリの音から始まり、雨の音に混じりイントロが流れてくると、日本の湿った雨もカリフォルニアの空のようにカラッと感じるから不思議です。誰もが一度は、耳にされていると思います。

さて、Vol.9では新入生の入学式や新年度予算のことなどいつもより掲載することがいっぱい、選択するのに悩むほどです。洛西ニュータウン病院の箕浦前病院長が「4年間振り返って」と題し特別寄稿してくださいました。長年勤めた私も懐かしく拝見させていただきました。また、今年度から初めてとなる米国の派遣施設へ留学した国外臨床実習生の5人の体験談は、今後の留学希望者に対して参考になるものと思います。本学初の臨床実習生認証式は、薗田教務部長の思い入れが強く感じられる原稿です。

いよいよ香里病院が7月1日に開院します。関係者は準備に最後のスパート、ご苦労様です。次号には詳しく取り上げます。乞うご期待！　(M.N)

関西医科大学広報 Vol.9

発　行　学校法人 関西医科大学
編　集　総務部 広報課
〒570-8506　大阪府守口市文園町10-15
TEL 06-6992-1001(代表)
FAX 06-6993-5221
http://www.kmu.ac.jp/
E-mail kmuinfo@takii.kmu.ac.jp
平成22年5月27日(木)発行